

## 第3期ロジスティクス環境会議

### 第2回本会議

2009年3月10日(火)13:30～15:30

ホテルニューオータニ 地下1F 麗の間

#### 次 第

#### 1. 開 会

#### 2. 経過報告

#### 3. 議 事

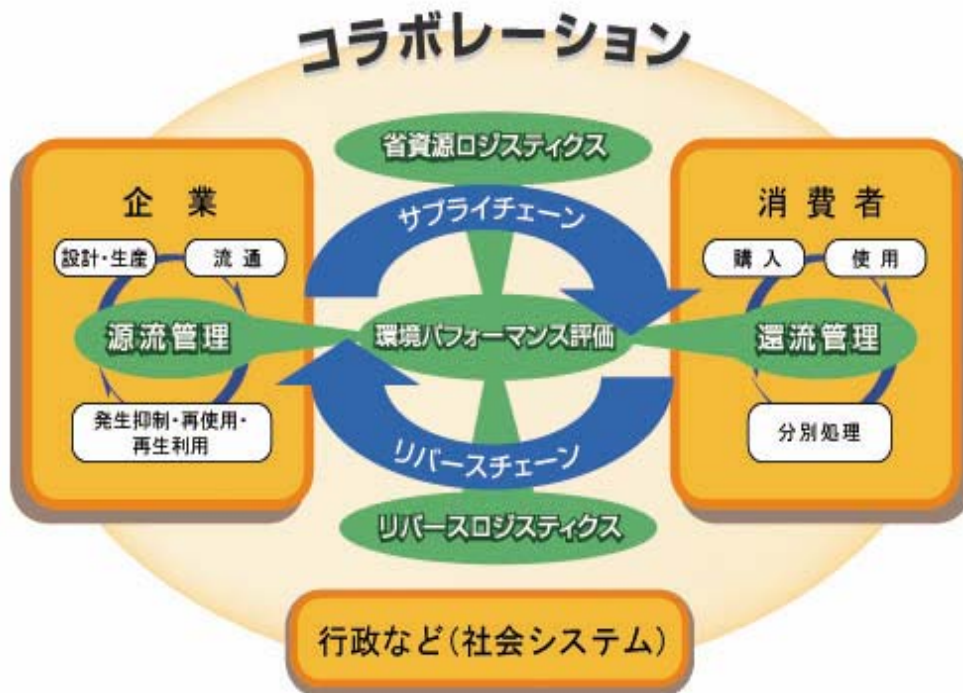
- 1) 研究会、委員会等の2008年度活動報告及び2009年度活動計画（案）について
  - (1) グリーン物流研究会
  - (2) 包装の適正化推進委員会
  - (3) グリーン物流推進のための取引条件検討委員会
  - (4) グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG
  - (5) 省エネ法実態調査について
- 2) 鉄道へのモーダルシフト促進に向けた要望書の提出について
- 3) 情報提供活動について
- 4) 2008年度収支決算（案）及び2009年度収支予算（案）について
- 5) 今後のスケジュールについて
- 6) 2008年度活動の総括について

#### 4. 行政施策動向の紹介

#### 5. 閉 会

以 上

## 循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン



循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン図

調達、生産、流通、消費の諸活動とそれらの過程を経て発生する廃棄物の処理の行為は、環境汚染や環境破壊など、環境に対して様々な負荷を与えます。私達の世代は健全な地球環境と社会環境とを（人類生存の大前提である）最も重要な財産として、将来の世代に引き継ぐ責務を有しています。その責務を果たすべく、ロジスティクスにおいても、環境への調和、環境との共生、環境改善への積極的貢献、を最優先に考えねばなりません。

ロジスティクスには、再使用や循環などの視点に加え、素材の選択や廃棄物の処理のあり方まで視野を広げ、環境への負荷に適切に配慮しつつ、費用対効果を最適化することが必要です。

JILS は 21 世紀の循環型社会における、ロジスティクス活動のあるべき姿として

**「環境と調和した循環型社会を支えるロジスティクス」**を提唱します。

循環型の経済活動を、ロジスティクスを通じて実現したいという思いを込めて、

**「循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン」**を提案します。

（第 1 期 第 1 回本会議／2003 年 11 月 13 日）

## 「ロジスティクス環境宣言」

ロジスティクス環境会議およびそのメンバーは、循環型社会を実現するため、物流分野の環境負荷低減を経営の重要課題として認識し、以下の活動に積極的に取り組むことを宣言する。

### 1. 自らの環境負荷を低減する

自らの活動によって発生する環境負荷低減の目標を定め、目標達成に向けたマネジメントサイクルを推進する。

### 2. 環境負荷低減に取り組む企業を増やす

関係企業とパートナーシップを築き、共に環境負荷低減に向けた取り組みを推進する。

### 3. 情報を発信し、循環型社会の形成に寄与する

活動を通して明らかになった課題については、企業・行政・団体等の関係者へ情報発信を行い、循環型社会の形成に寄与する。

(第 1 期 第 4 回本会議/2006 年 3 月 15 日)

# 第3期ロジスティクス環境会議 組織体制 (2009年3月10日時点)

資料 1 - 3  
2009. 3. 10

議長: 三村 明夫 (新日本製鐵(株) 代表取締役会長)  
副議長: 岡部 正彦 (日本通運(株) 代表取締役会長)  
副議長: 鈴木 敏文 (株イトーヨーカ堂 代表取締役会長 CEO)

**ロジスティクス  
環境会議 (本会議)**

メンバー: 97社

**企画運営委員会  
(16名)**

委員長: 杉山 武彦  
(一橋大学 学長)  
副委員長: 増井 忠幸  
(武蔵工業大学 環境情報学部 学部長)  
副委員長: 高橋 信直  
(新日本製鐵(株) 営業総括部 部長)  
副委員長: 牛込 達彦  
(日本通運(株) 環境・社会貢献部 部長)

**グリーン物流研究会  
(90名)**

幹事: 下村 博史 (株日本総合研究所 総合研究部門 上席主任研究員)  
副幹事: 鈴木 邦成 (文化ファッション大学院大学 ファッションビジネス研究科 准教授)  
副幹事: 黒坂 真一 (株ヤマタネ 情報本部 情報営業部 次長)

**包装の適正化推進委員会  
(26名)**

委員長: 増井 忠幸 (武蔵工業大学 環境情報学部 学部長)  
副委員長: 藤井 幸則 (オリンパス(株) 品質環境推進部 技術サポートグループ課長)  
副委員長: 麦田 耕治 (日本通運(株) 環境・社会貢献部 専任部長)

**グリーン物流推進のための  
取引条件検討委員会  
(50名)**

委員長: 山本 明弘 (株日通総合研究所 物流技術環境部長 兼 環境グループ担当部長)  
副委員長: 大山 茂夫 (第一貨物(株) CS・環境対策 担当部長)  
副委員長: 梅津 芳文 (バンダイロジパル(株) 環境推進室 マネージャー)  
副委員長: 小島 賢次 (リコーロジスティクス(株) 営業本部 審議役)

**グリーンロジスティクス  
チェックリスト調査WG**

幹事: 矢野 裕児 (流通経済大学 流通情報学部 教授)  
幹事: 菅田 勝 (リコーロジスティクス(株) クオリティー (KAIZEN) アドバイザー  
(株)ロジスティクス革新パートナーズ 代表取締役)



## 第 3 期ロジスティクス環境会議 2008 年度の活動経過

### 1. 企画運営委員会

- 1) 第 1 回企画運営委員会  
日時：2008 年 6 月 26 日(木) 15:00-17:05  
会場：浜松町東京會館  
議事：①環境会議のこれまでの取り組みと第 3 期の活動イメージについて  
②組織体制について  
③研究会、委員会、ワーキング等について  
④グリーンロジスティクス推進週間/月間（仮称）について  
⑤2008 年度スケジュールについて  
⑥第 1 回本会議について
  
- 2) 第 2 回企画運営委員会  
日時：2008 年 11 月 20 日(木) 15:00-16:40  
会場：芝パークホテル  
議事：①研究会、委員会の 2006 年度活動内容について  
②調査関係の活動について  
③広報・普及活動について
  
- 3) 第 3 回企画運営委員会  
日時：2009 年 2 月 26 日(木) 10:00-11:25  
会場：(社) 日本ロジスティクスシステム協会  
議事：①研究会、委員会の 2008 年度活動内容、及び 2009 年度活動計画（案）について  
②調査関係の活動について  
③鉄道へのモーダルシフト促進に関する要望について  
④情報提供活動について  
⑤第 2 回本会議について

### 2. グリーン物流研究会（計 8 回）

- 1) 第 1 回グリーン物流研究会  
日時：2008 年 5 月 21 日(水) 14:00-17:00  
会場：中央大学駿河台記念館
  
- 2) 第 2 回グリーン物流研究会  
日時：2008 年 6 月 18 日(水) 14:00-17:00  
会場：中央大学駿河台記念館
  
- 3) 第 3 回グリーン物流研究会  
日時：2008 年 7 月 16 日(水) 14:00-17:00  
会場：中央大学駿河台記念館
  
- 4) 第 4 回グリーン物流研究会  
日時：2008 年 9 月 24 日(水) 14:00-17:00  
会場：中央大学駿河台記念館

- 5) 第5回グリーン物流研究会  
日時：2008年10月23日(木) 14:00-17:00  
会場：中央大学駿河台記念館
- 6) 第6回グリーン物流研究会（見学会）  
日時：2008年11月19日(水) 14:00-17:00  
会場：日本アイ・ビー・エム(株)/日本ビジネスロジスティクス(株) 藤沢北事業所
- 7) 第7回グリーン物流研究会  
日時：2008年12月3日(水) 14:00-17:00  
会場：中央大学駿河台記念館
- 8) 第8回グリーン物流研究会  
日時：2009年1月21日(水) 14:00-17:00  
会場：中央大学駿河台記念館

### **3. 包装の適正化推進委員会（計4回）**

- 1) 第1回包装の適正化推進委員会  
日時：2008年9月26日(金) 15:00-17:00  
会場：(社) 日本ロジスティクスシステム協会
- 2) 第2回包装の適正化推進委員会  
日時：2008年11月6日(木) 15:00-17:00  
会場：(社) 日本ロジスティクスシステム協会
- 3) 第3回包装の適正化推進委員会  
日時：2009年1月15日(木) 15:00-17:05  
会場：中央大学駿河台記念館
- 4) 第4回包装の適正化推進委員会  
日時：2009年2月19日(木) 10:00-12:15  
会場：中央大学駿河台記念館

### **4. グリーン物流推進のための取引条件検討委員会（計4回）**

- 1) 第1回グリーン物流推進のための取引条件検討委員会  
日時：2008年10月2日(木) 15:00-16:45  
会場：中央大学駿河台記念館
- 2) 第2回グリーン物流推進のための取引条件検討委員会  
日時：2008年11月14日(金) 15:00-17:00  
会場：くるまプラザ
- 3) 第3回グリーン物流推進のための取引条件検討委員会  
日時：2009年1月19日(月) 15:00-16:55  
会場：中央大学駿河台記念館

- 4) 第4回グリーン物流推進のための取引条件検討委員会  
日時：2009年2月20日(金) 15:00-16:50  
会場：くるまプラザ

**5. グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG (計2回)**

- 1) 第1回グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG  
日時：2008年12月11日(木) 17:30-19:50  
会場：(社) 日本ロジスティクスシステム協会
- 2) 第2回グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG  
日時：2009年2月2日(金) 10:30-12:15  
会場：(社) 日本ロジスティクスシステム協会

以 上

第3期ロジスティクス環境会議 研究会、委員会の活動方針、2008 年度活動内容、及び 2009 年度活動計画(案)について

研究会/委員会	活動方針	2008 年度活動内容	2009 年度活動計画 (案)
<b>グリーン物流研究会</b> (登録人数：90名)	ロジスティクス分野における環境負荷低減活動を推進するため、グリーン物流に関する各種施策の実施事例等の情報交換等を通じて、実践的な改善施策を研究する。	<b>1. 研究会（講演会形式）</b> 7回開催 <b>2. 見学会</b> 1回開催 <b>3. その他</b> 1) メンバー記入表の作成及び配布（新規） 研究会への参加目的、グリーン物流に関する課題等を各メンバーにご記載いただくとともに、その内容を全メンバーに配布することで、メンバー相互の人的交流の一助としていただいた。 2) アンケートの実施 2008年度の活動の評価と反省のために実施した「2008年度活動アンケート」含めて、計8回実施 3) ブログによる情報発信 (URL： <a href="http://plaza.rakuten.co.jp/greenlogistics/">http://plaza.rakuten.co.jp/greenlogistics/</a> )  <b>&lt;アウトプット&gt;</b> <b>『2008年度 グリーン物流研究会 活動報告書』</b>	<b>1. 研究会（講演会形式） 7回</b> * 「2008年度活動アンケート」結果等を踏まえて、運営形式等の工夫を検討  <b>2. 見学会 1回</b>  <b>3. ブログによる情報発信の継続</b>  <b>4. 総括アンケートの実施</b>  <b>&lt;アウトプット&gt;</b> <b>『2009年度 グリーン物流研究会 活動報告書』</b>
<b>包装の適正化推進委員会</b> (登録人数：26名)	物流の主要な1機能である「包装」の適正化による環境負荷低減に向け、荷主企業と物流企業等の課題を整理した上で、解決策を検討する。 さらに必要に応じて企業、行政、団体等の関係者への提言を行う。	<b>1. 活動内容の検討</b> 1) 「活動内容アンケート」を実施 2) 上記アンケート結果を基に活動内容を検討 ⇒「包装に関わる環境パフォーマンスの算定」に関する検討を行う。 その中でも、特に委員の関心の高い「CO <sub>2</sub> への換算」に向けた検討を行う。 <b>2. 包装に関わる環境パフォーマンスの算定についての検討</b> 1) 「包装に関わる環境パフォーマンスの算定に関する調査」の実施 各社における包装に関わる環境パフォーマンス算出状況等について確認 ⇒パフォーマンス算定に必要な基データもあまり捉えられていない実態 2) 「サプライチェーンにおける包装材の流れのイメージ図(案)の策定」 ⇒様々な主体においてある程度“読み替え”ができるようなコメントの追記等の修正が必要 3) CO <sub>2</sub> 換算に向けた検討 (1) CO <sub>2</sub> 排出原単位の整理 だれでも入手可能な原単位の情報収集 (2) 投入量、排出量の標準的算出方法の検討 製造業におけるワンウェイ、リターナブルの投入量における標準的算出方法の検討	<b>2. 包装に関わる環境パフォーマンスの算定についての検討</b> 1) サプライチェーンにおける包装材の流れのイメージ図の策定  2) CO <sub>2</sub> 換算に向けた検討 (1) CO <sub>2</sub> 排出原単位の整理 ・他の原単位の有無の確認 ・活用しやすいような整理 (2) 投入量、排出量の標準的算出方法の検討 ・製造業における標準的算出方法の検討 ・物流事業者における標準的算出方法の検討 (3) その他 (1)、(2)を踏まえた算出可能性の調査  <b>&lt;アウトプット例&gt;</b> <b>『輸送包装に関わる環境パフォーマンス算定ガイド』</b> <b>行政等への意見・要望</b>



研究会/委員会	活動方針	2008 年度活動内容	2009 年度活動計画（案）
<b>グリーン物流 推進のための 取引条件検討 委員会</b> （登録人数： 50名）	<p>環境負荷と経済効率を考慮した物流に係る取引条件のあり方について、発荷主、着荷主、物流事業者間で課題を共有し、解決の方向性、方策を検討する。</p> <p>さらに必要に応じて企業、行政、団体等の関係者への提言を行う。</p>	<p><b>1. 活動内容の検討</b></p> <p>1) 「活動内容アンケート」を実施</p> <p>2) 物流に係る取引条件を検討するねらい（含む過去の検討成果）の確認</p> <p>3) 上記アンケート結果を基に活動内容を検討 ⇒「時間指定」をテーマに検討を行う。</p> <p><b>2. 「時間指定」が環境負荷に与える影響等についての検討</b></p> <p>1) 「時間指定に関するアンケート調査の実施」 ①着荷主、②発荷主、③物流事業者それぞれの立場における「時間指定」の捉え方等について確認 ⇒特に物流事業者側から①指定された時間に到着しても荷降ろし待ち時間の長時間化、②午前指定の集中等による配車・配送効率悪化に伴う環境負荷増</p> <p>2) 主な検討対象の審議 当委員会での主な検討対象を決定するために、業種等により「時間指定の分類・整理表」を策定するとともに、同表を参考として、検討対象を審議 ⇒「メーカー⇒卸」、「卸⇒小売」を主な対象とする。</p> <p>3) 時間指定の見直しによるCO<sub>2</sub>改善効果の算出等に向けた調査項目の検討 ⇒CO<sub>2</sub>改善効果の算出については、一部委員にデータ等の御協力いただく形での調査実施を決定 ⇒上記とは別に、委員各社において時間指定の見直しを実施できた要因等に関する調査実施を決定</p>	<p><b>2. 「時間指定」が環境負荷に与える影響等についての検討</b></p> <p>1) 時間指定の見直しによるCO<sub>2</sub>改善効果の算出等に向けた調査実施</p> <p>2) 推進するための施策の検討、及び実施にあたっての阻害要因の整理</p> <p>3) その他 ・時間指定と他の取引条件（例 リードタイム等）との関係</p> <p><b>&lt;アウトプット例&gt;</b>  <b>『時間指定の見直しによるグリーン物流推進ガイド』</b>  <b>行政等への意見・要望</b></p>

資料 2 - 2  
2009. 3. 10

第3期ロジスティクス環境会議 第2回本会議

# グリーン物流研究会

2009年3月10日



# 1. グリーン物流研究会の概要

期 間

2008年5月～2010年1月(約2年)

メンバー

企業・研究機関 90名

活動の狙い

研究会の内・外から企業事例、行政施策等グリーン物流の新しい情報を収集、共有することで、研究会メンバーによる環境負荷低減活動を促進する

## 2. グリーン物流研究会の運営体制

### □ 幹事

下村 博史

(株)日本総合研究所 総合研究部門 上席主任研究員)

### □ 副幹事

鈴木 邦成

(文化ファッション大学院大学 ファッションビジネス研究科  
准教授)

黒坂 真一

(株)ヤマタネ 情報本部 情報営業部 次長)

## 3. グリーン物流研究会 2008年度活動実績

日程	講演①	講演②	講演③
第1回 2008年 5月21日(水)	オリエンテーション、年間企画説明、名刺交換会		<u>日経BP社</u> 「物流に求められる環境対応とは」
第2回 2008年 6月18日(水)	<u>㈱アスア</u> 「エコドライブ活動による CO <sub>2</sub> 削減と人材育成 -経営者・管理者の考え方で成果は決まる-」	<u>新日石プラスト㈱</u> 「シートパレットによる物流効率化と 環境負荷低減」	<u>日本ビジネスロジスティクス㈱</u> 「グローバルロジスティクスに向けた 輸送品質の改善による環境負荷の低減 -サーバー製品の外装梱包損傷課題における取組-」
第3回 2008年 7月16日(水)	<u>国土交通省</u> 「運輸部門における地球温暖化対策 について」	<u>㈱ユニー</u> 「循環型社会形成に向けたユニーの取組 -未来の子供達に美しい自然を残したい-」	<u>光英システム㈱</u> 「運輸分野におけるCO <sub>2</sub> 削減に向けた 自動配送計画システムと車載端末活用の実例」
第4回 2008年 9月24日(水)	<u>拓殖大学</u> 「アメリカにおける物流改革最前線 -グリーン物流の視点から-」	<u>住金物産㈱</u> 「アパレル・サプライチェーンにおける 環境物流の将来像」	<u>NECロジスティクス㈱</u> 「NECロジスティクス㈱の環境活動の取組み -環境アニュアルレポートより-」
第5回 2008年 10月23日(木)	<u>文化ファッション大学院大学</u> 「CO <sub>2</sub> 排出量取引に関する最新事情」	<u>明治乳業㈱</u> 「明治乳業グループのグリーン物流への取組み -エコドライブと輸送新技術への挑戦-」	<u>SBSホールディングス㈱</u> 「SBSグループにおける環境への取組み -デジ知導入によるグリーン物流の実現と 運行管理体制の確立に向けて-」
第6回 2008年 11月19日(水)	・ <u>日本アイ・ビー・エム㈱</u> /日本ビジネスロジスティクス㈱ 藤沢北事業所 3R工場の見学会		
第7回 2008年 12月3日(水)	<u>東京都</u> 「東京における地区物流効率化 認定制度について」 <u>武蔵野市役所</u> 「吉祥寺における荷捌き駐車対策」	<u>トランコム㈱</u> 「エコロジネットワークによる グリーン物流推進」	<u>環境省</u> 「循環型社会の形成に向けた環境省の取り組み」
第8回 2009年 1月21日(水)	<u>山九㈱</u> 「山九㈱のエコ・ビジネスと グリーン物流への取組み」	<u>㈱竹中工務店</u> 「建設会社における 物流施設環境負荷低減活動」	<u>東京大学・オリンパス㈱</u> 「パルプ射出成形(PIM)の研究動向と 包装材への適用可能性」

●発表:計20名(うちメンバー企業12名、外部講師8名(企業名に下線))

# グリーン物流研究会 2008年度活動実績(テーマ別)

## 1. 総論、動向

- ・日経BP社、文化ファッション大学院大学、拓殖大学

## 2. 行政施策

- ・国土交通省、環境省、東京都/吉祥寺市

## 3. 輸送

- ・国土交通省、アスア、住金物産、NECロジスティクス、明治乳業、SBSホールディングス、ランコム、山九、新日石プラスト、光英システム

## 4. 包装

- ・日本ビジネスロジスティクス、東京大学/オリンパス、NECロジスティクス

## 5. 3R

- ・環境省、ユニー、日本アイ・ビー・エム/日本ビジネスロジスティクス、山九

## 6. 施設

- ・竹中工務店

⇒過去2年は改正省エネ法を受け、輸送分野のテーマが多かったが、今年度は包装、3Rといったテーマが増えた。

# 2008年度 その他の活動


●ブログによる情報発信 <http://plaza.rakuten.co.jp/greenlogistics/>



グリーン物流研究会の活動日記

| << 前へ | 次へ >> | 一覧 | コメントを書く |

2008.10.29

 [このブログを購読する](#)

第5回研究会 排出量取引 | 1/3

[ 08年度の研究会 ]

研究会幹事の下村(日本総研)です。先週木曜日、10/23に第5回目の研究会を開催しました。遅くなりましたが順次、備忘録をアップしていきます。明治乳業・桜井様、SBSグループ・両宮様のご講演については明日以降、追加してまいります。

●概要

テーマ:「CO2排出量取引の最新事情」

講演者: 文化ファッション大学院大学 准教授 鈴木邦成

●排出量取引とは

# 4. 2009年度 活動計画(案)

## 1) テーマについて

●メンバーの皆様の取組

+

●新しい話題、先進的なテーマ

❁ 代替エネルギーの利用

❁ リバース生産

❁ ロジスティクス関連の技術イノベーション

❁ 排出量取引

❁ エコファンド





## 2)開催スケジュールについて

	開催月
第9回	2009年5月
第10回	2009年6月
第11回	2009年7月
第12回	2009年9月
第13回	2009年10月
第14回	2009年11月
第15回	2009年12月
第16回	2010年1月

## 3)その他

- ・参加者とスピーカーとのコミュニケーションが  
取れるような運営の工夫



# 5. 最後に

## ● 研究会は、「きっかけ作り」の場

- \* 限られた時間
- \* 3時間/回×16回 だけで終わらせるのは、もったいない。

## ● 情報交換、GIVE & TAKE

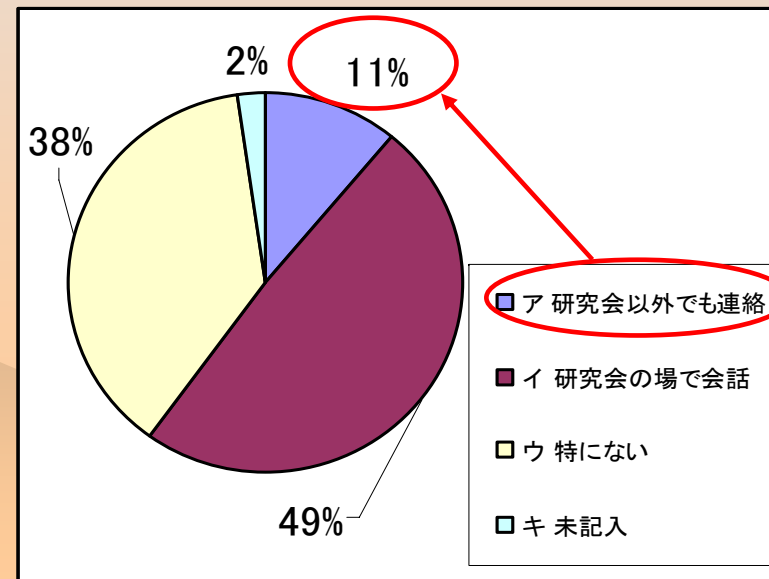
## ● 異業種の事例

- ・ 自社/同業種では気がつかないヒントの可能性

## ● 人的ネットワークの形成

- ・ 自分は分からないが、〇〇氏なら分かるかも...

Q 人的交流について

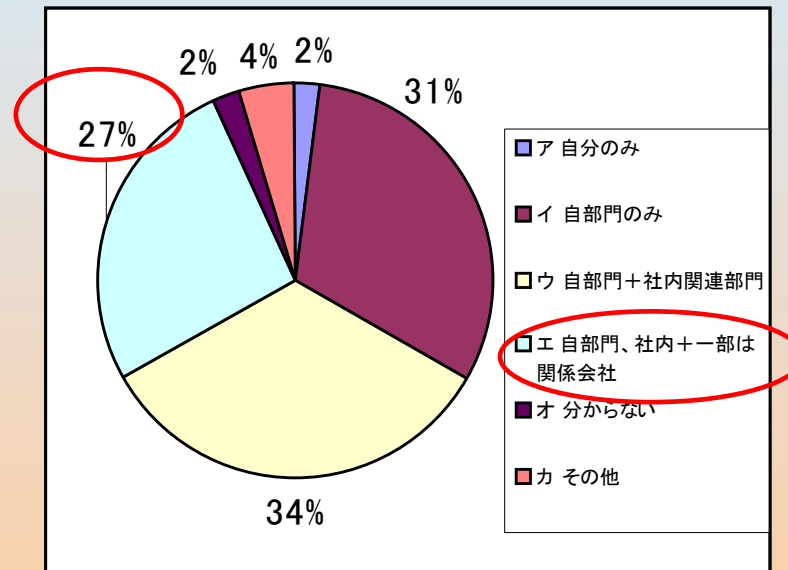


# 5. 最後に

## ●情報の展開

・「自分」 ⇒ 「自部門」 ⇒ 「関連部門」  
⇒ 「グループ会社」 (⇒ 「取引先」)

Q 収集した情報の展開



2008年度活動アンケートより

●8回も参加できない? ⇒ 代理出席も可能

「グリーン物流研究会」名簿に社名が載ってない方  
→次年度ぜひご登録を下さい!

# 包装の適正化推進委員会

## 1. 当委員会の役割と運営体制

### 【役割】

物流の主要な1機能である「包装」の適正化による環境負荷低減に向け、荷主企業と物流企業等の課題を整理した上で、解決策を検討する。

さらに必要に応じて企業、行政、関係団体等の関係者に提言を行う。

### 【運営体制】

#### □委員長

増井 忠幸

(武蔵工業大学 環境情報学部 学部長)

#### □副委員長

藤井 幸則

(オリンパス(株) 品質環境推進部 技術サポートグループ 課長)

麦田 耕治

(日本通運(株) 環境・社会貢献部 専任部長)

#### □メンバー(計23人)

## 2. 2008年度の活動内容

### 1. 活動内容の検討

- ・委員を対象とした「活動内容アンケート」結果等を踏まえ「**包装に関わる環境パフォーマンスの算定**」に関する検討を行う。
- ・その中でも、委員の関心の高い「**CO<sub>2</sub>への換算**」に向けた調査・検討を行う。

### 2. 「包装に関わる環境パフォーマンスの算定」に関する検討

- 1) 「包装に関わる環境パフォーマンスの算定に関する調査」
- 2) サプライチェーンにおける包装材の流れのイメージ(仮称)(案)の策定
- 3) CO<sub>2</sub>換算に向けた検討

## 3-1. 包装に関わる環境パフォーマンスの算定に関する調査

---

### 【主な調査概要】

委員を対象に、ワンウェイ/リターナブル包装材における環境パフォーマンス算出に必要なデータの算出状況



具体的には「投入量(購入量、使用量)」、「排出量」が

- ①捉えられているか
- ②捉えられている場合、どのような単位で行われているか

### 3-2. 調査結果の概要(その1)

図表1 購入・使用量等に関する結果(総括表)

		ワンウェイ			リターナブル		
		捉えている*1	捉えていない	その他	捉えている*1	捉えていない	その他
購入	購入金額	9	1	0	9	1	0
	個数、枚数等	9	1	0	8	2	0
	重量	4	4	2	3	7	0
	素材別重量	4	4	2	2	8	0
使用	個数、枚数等	6	4	0			
	重量	4	5	1			
	素材別重量	5	4	1			
	年間使用回数				5	5	0
保有	金額ベース				6	4	0
	個数、枚数等				7	3	0
	重量				3	7	0
	素材別重量				2	8	0
(参考) 合計		41	23	6	45	45	0

\*1 捉えているには、「全て」及び「一部の種類」が含まれている



### 3-3. 調査結果の概要(その2)

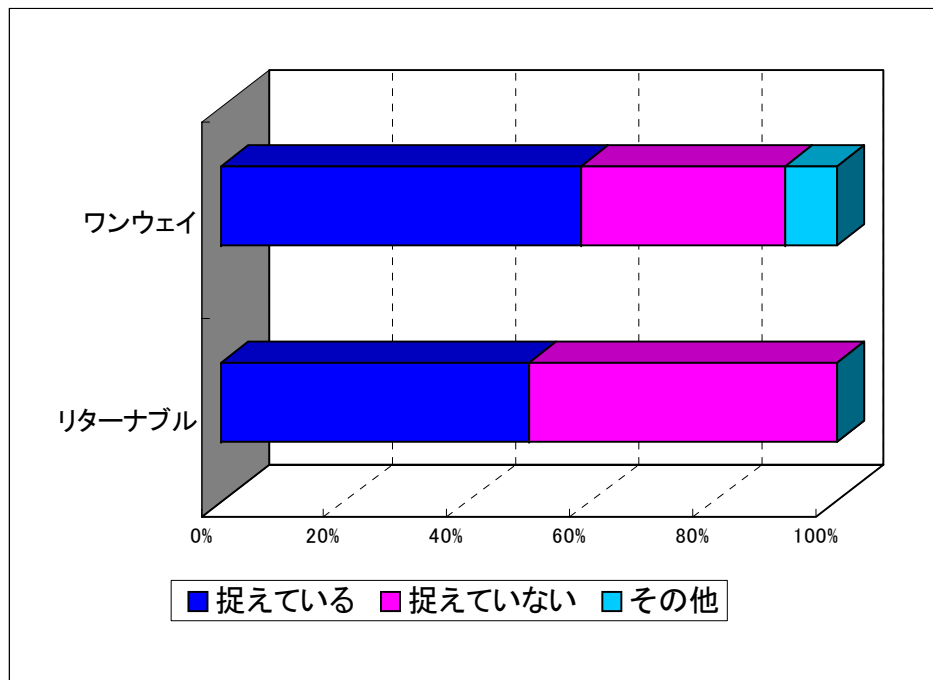
図表2 排出量に関する結果(総括表)

		ワンウェイ			リターナブル		
		捉えている*2	捉えていない	その他	捉えている*2	捉えていない	その他
廃棄	個数、枚数等	1	9	0	3	7	0
	重量	5	3	2	4	5	1
	素材別重量	2	6	2	2	7	1
売却	個数、枚数等	0	10	0	1	9	0
	重量	5	4	1	4	5	1
	素材別重量	2	7	1	2	7	1
(参考) 合計		15	39	6	16	40	4

\*2 捉えているには、「全て」及び「一部の種類」が含まれている

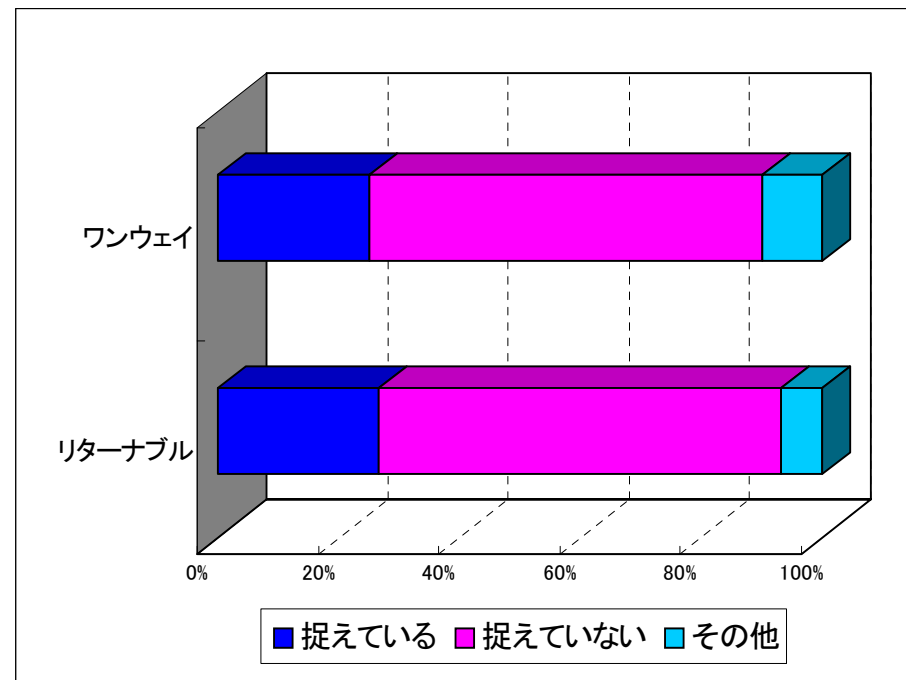
### 3-4. 調査結果の概要(その3)

図表3 購入・使用に関わるデータの把握状況



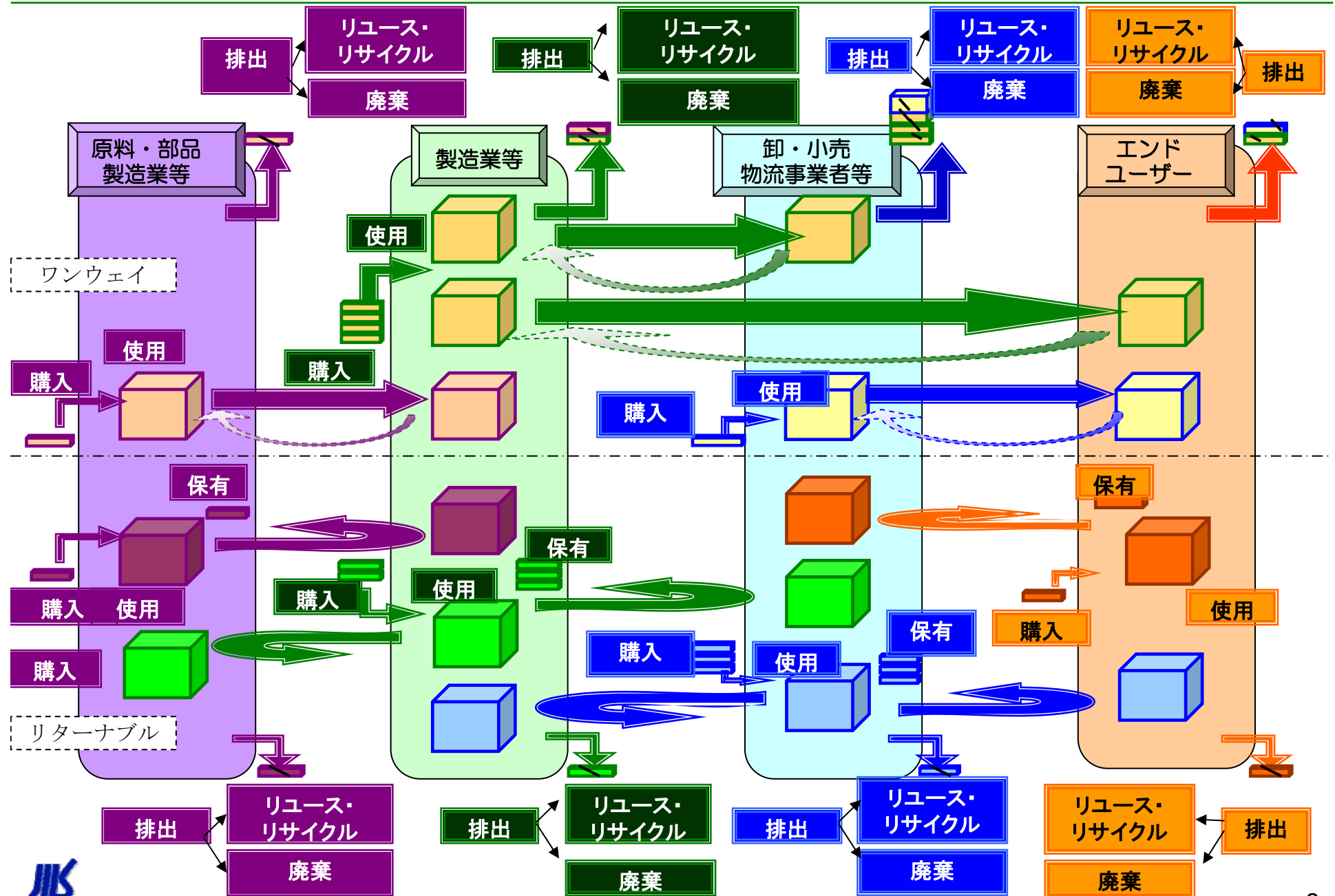
⇒ワンウェイについては6割  
リターナブルについては5割

図表4 排出に関わるデータの把握状況



⇒ワンウェイ、リターナブルともに2割

# 4. サプライチェーンにおける包装材の流れのイメージ図(仮称)(案)



## 5-1. CO<sub>2</sub>換算に向けた検討にあたって

何の為に環境パフォーマンス(CO<sub>2</sub>排出量)を算定するのか？



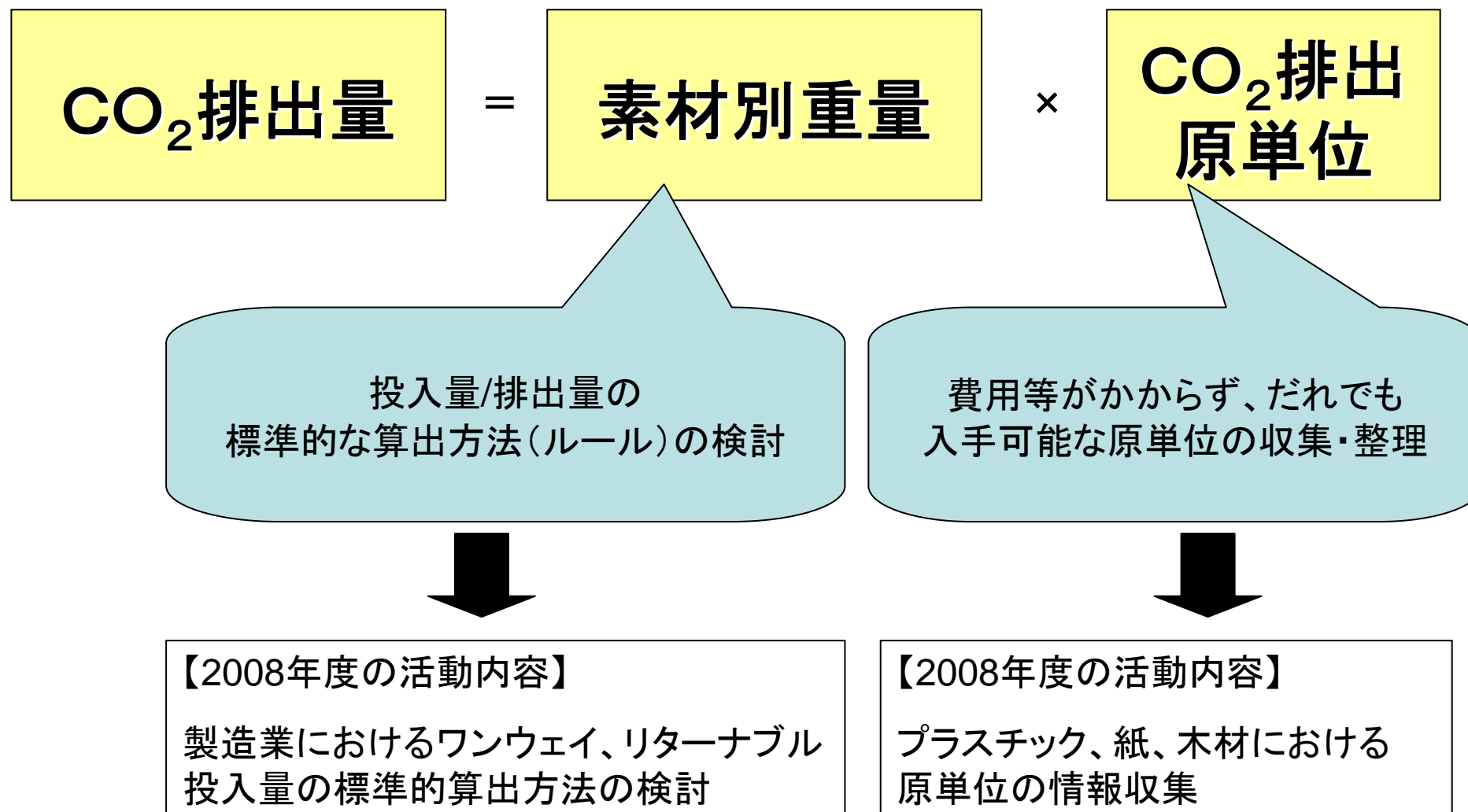
取組の効果を定量的に表すことにより、さらなる適正化につなげるため  
(適正化を進めるための指標(材料)として用いるため)

包装材におけるCO<sub>2</sub>排出責任はどこまであるのか？



研究者、包装材の製造メーカーではない、  
ユーザーとして現状可能な算出方法を研究・検討

## 5-2. CO<sub>2</sub>換算に向けた検討



## 6. 2009年度の活動計画(案)

### 1) サプライチェーンにおける包装材の流れのイメージ図策定

- ・モジュールとして参照・使用しやすいようにする

### 2) CO<sub>2</sub>換算に向けた検討

#### ①CO<sub>2</sub>排出原単位の整理

- ・他の原単位の確認
- ・活用しやすいような整理、見せ方の工夫

#### ②投入量、排出量の標準的算出方法の検討


- ・製造業における標準的算出方法の検討
- ・物流事業者における標準的算出方法の検討

#### ③その他

- ①、②を踏まえた算出可能性の調査

### 【アウトプット案】

- ・輸送包装に関わる環境パフォーマンス算定ガイド(仮称)

-  行政等への意見・要望

# グリーン物流推進のための 取引条件検討委員会

## 1. 当委員会の役割と運営体制

### 【役割】

環境負荷と経済効率を考慮した物流に係る取引条件のあり方について、発荷主、着荷主、物流事業者間で課題を共有し、解決の方向性、方策を検討する。さらに必要に応じて企業、行政、関係団体等の関係者に提言を行う。

### 【運営体制】

#### □委員長

山本 明弘 (株)日通総合研究所 物流技術環境部長 兼 環境グループ担当部長)

#### □副委員長

大山 茂夫 (第一貨物株) CS・環境対策担当 部長)

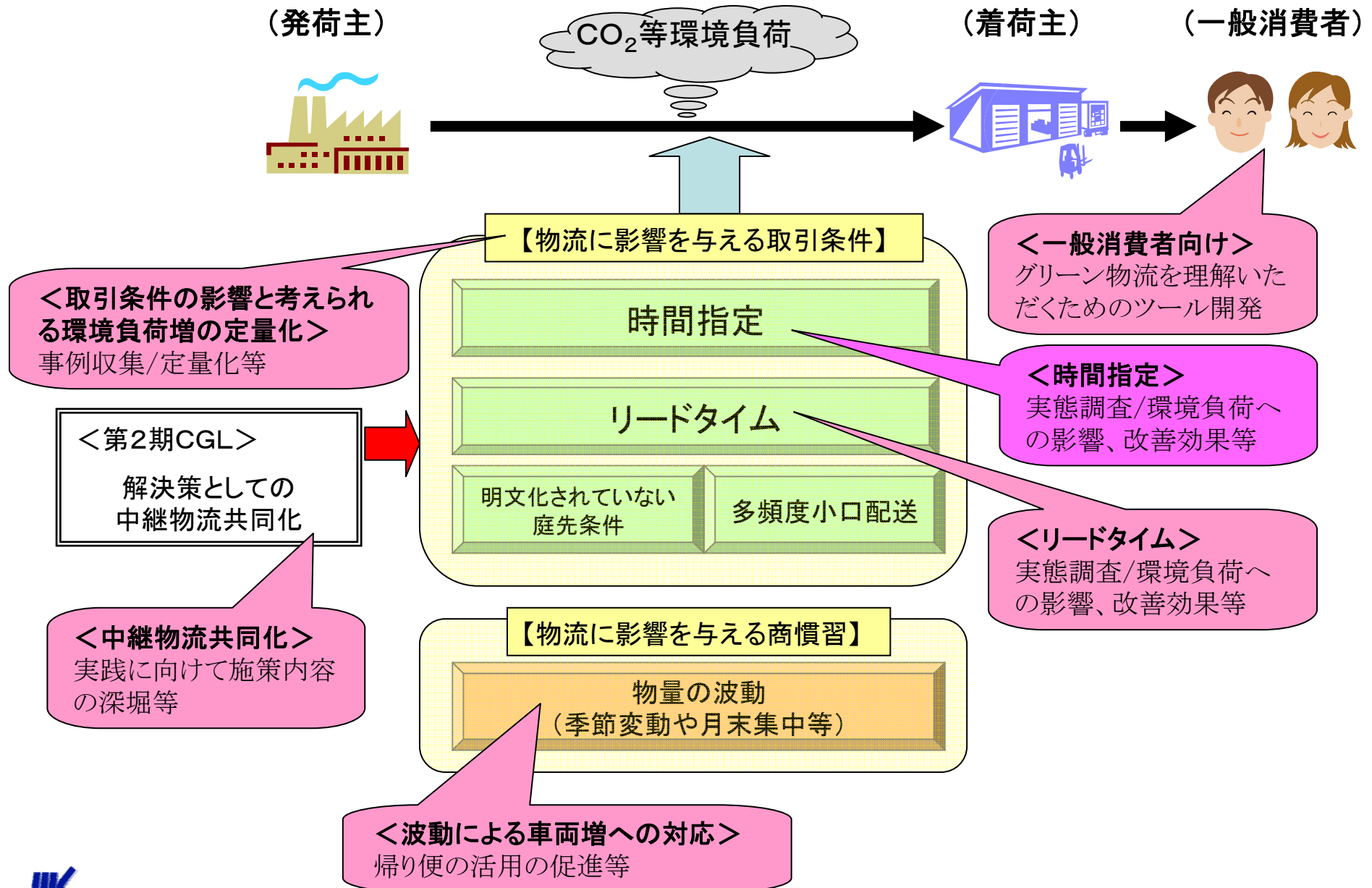
梅津 芳文 (株)バンダイロジパル 環境推進室 マネージャー)

小島 賢次 (リコーロジスティクス株) 営業本部 審議役)

#### □メンバー(計46人)



## 2-1. 当委員会の活動テーマ検討(活動内容アンケート)



【目的】ロジスティクス分野における環境負荷低減  
(主として輸配送分野におけるCO<sub>2</sub>削減)



物流にかかわる取引条件の1つである「時間指定」に焦点をあて、  
時間指定の見直し(それに付随する事項の改善含む)が

- ①上記目的達成に寄与するかどうか。
- ②どのケースでどの程度、寄与するのか。
- ③具体的にどのように見直しを進めればよいのか。そのための施策は何か。
- ④進めるにあたっての課題とその解決策は何か。

を研究、検討し、示すこと。

- 1)「時間指定に関するアンケート調査」
- 2) 主な検討対象の審議
- 3) 時間指定の見直しによる  
CO<sub>2</sub>改善効果の算出等に向けた  
調査項目の検討

## 4-1. 時間指定に関するアンケート調査

---

### 【主な調査概要】

①着荷主、②発荷主、③物流事業者それぞれの立場における「**時間指定**」の捉え方等について確認



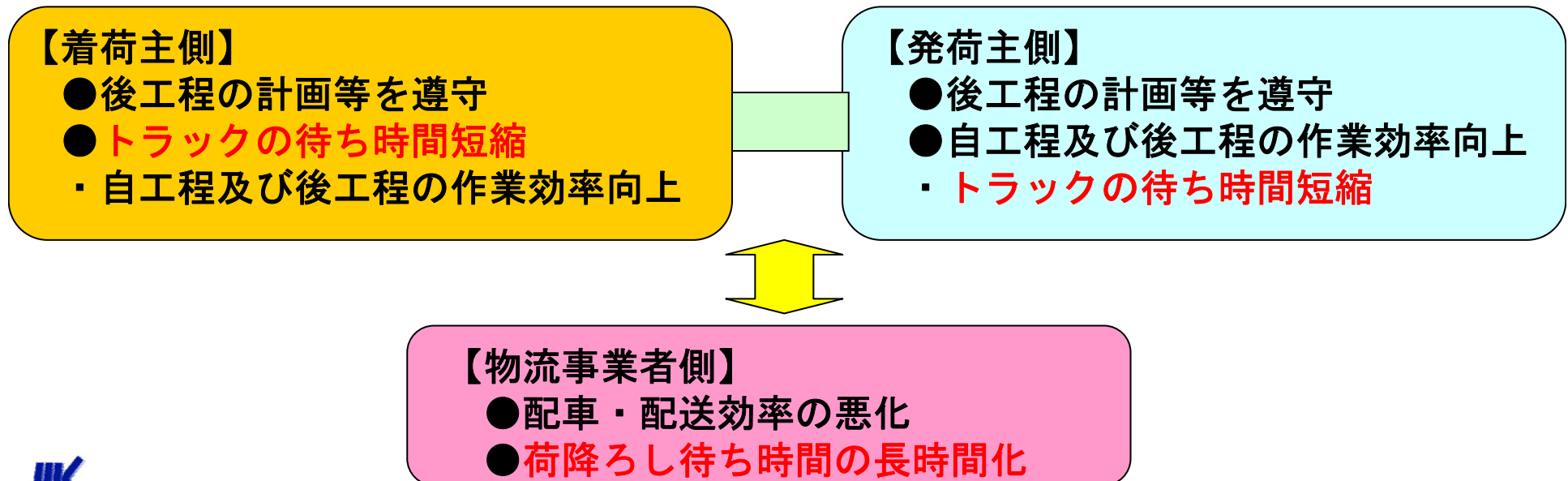
- ①指定する(される)納品時間の範囲
- ②指定する理由 / 指定により発生している課題
- ③納品時間の指定の有無による納入価格等の差異
- ④納品時間を指定するケースとしないケースの有無
- ⑤時間指定がなくなる場合の具体的な問題点
- ⑥時間指定がなくなる(緩和される)ことによる改善内容
- ⑦その他

## 4-2. アンケート調査結果の概要(その1)

### ①指定される時間

- ・午前中
- ・○時から▲時の間(範囲:1時間)

### ②指定する(指定される)理由 と 指定による課題

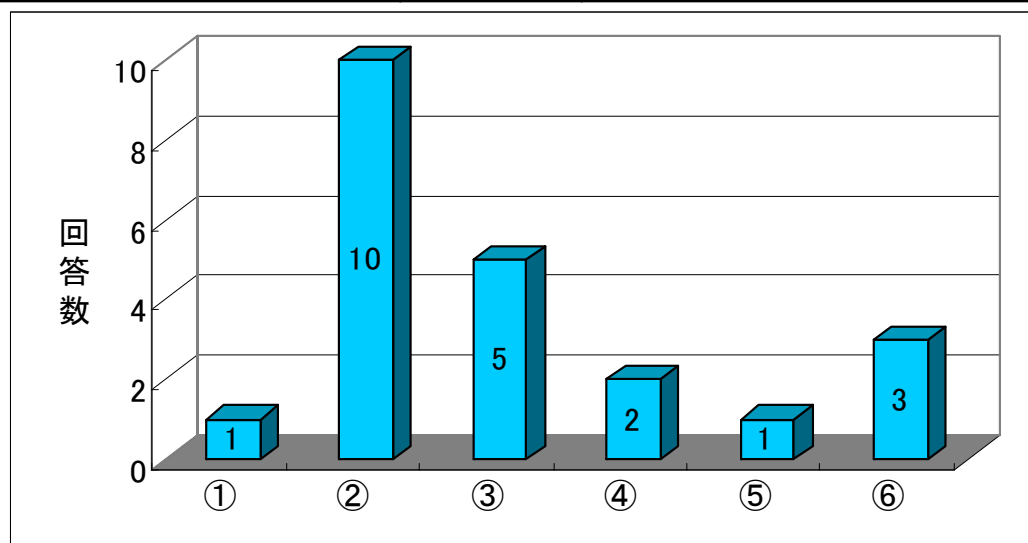


## 4-3. アンケート調査結果の概要(その2)

### ⑥時間指定がなくなる(緩和される)ことによる改善内容

図表 発荷主の立場として、時間指定がなくなる、あるいは緩和された際に改善できると考えられる項目

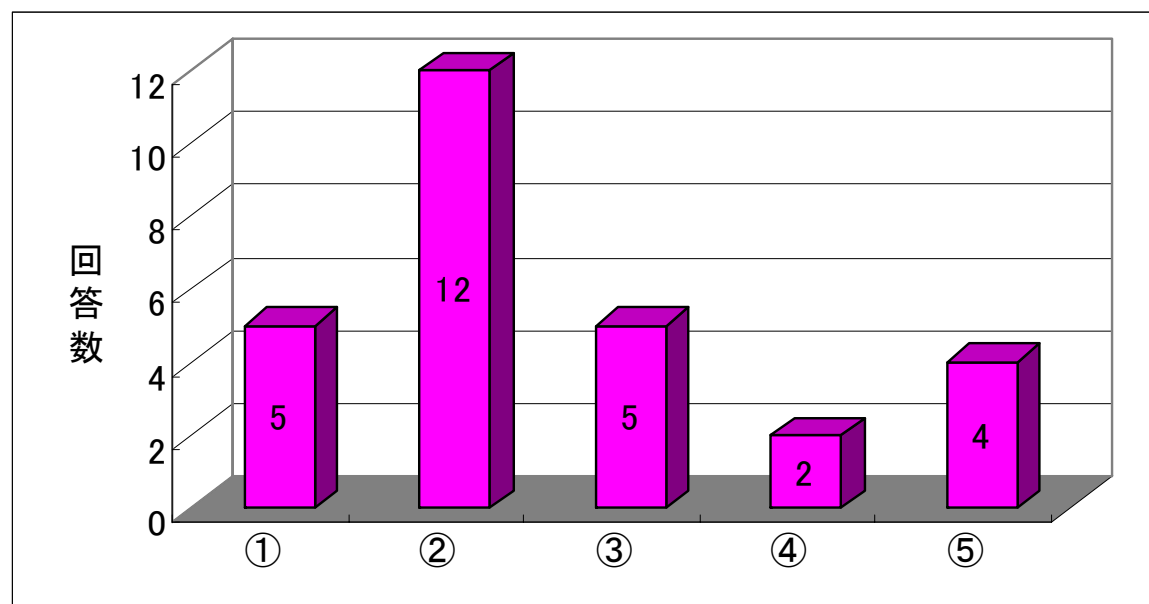
選択肢	回答結果			
	総数	製造業	流通業	物流子会社 物流事業者
①ドライバーの労働条件の改善	1	0	1	0
②配車・配送効率の向上	10	7	2	1
③コストダウン	5	4	1	0
④共同輸配送の推進	2	2	0	0
⑤モーダルシフトの推進	1	1	0	0
⑥その他	3	0	2	1



## 4-4. アンケート調査結果の概要(その3)

図表 物流事業者等の立場として、時間指定がなくなる、あるいは緩和された際に改善できると考えられる項目

選択肢	回答結果		
	総数	物流子会社 製造業	物流事業者
①ドライバーの労働条件の改善	5	2	3
②配車・配送効率の向上	12	5	7
③コストダウン	5	1	4
④荷降ろし待ち時間の短縮	2	0	2
⑤その他	2	0	2



## 4-5. アンケート調査結果の概要(その4)

### ⑦その他意見

#### ●時間指定の必要性

- ・着荷主のみならず、発荷主、物流事業者についても、すべての時間指定が悪い(必要ない)といっているわけではない。



#### ●不確実な時間指定

- ・指定された時間に到着しても荷降ろしできない。
- ・「指定された時間に配送しても不在」、  
「着荷主が要望していないのにもかかわらず午前指定」といったこと有

#### ●取り組み（取り組みの方向性）

- ・待機時間の削減
- ・時間指定の緩和
- ・発着荷主、物流事業者での相互理解、協議



## 5-1. 業種等による分類・整理イメージ(その1)

No	分類		配送継続性	配送頻度	納品時間	着側の制約			後工程	委員会での意見、及び時間指定アンケートでの記載等	備考
	大分類	小分類				入荷待機等敷地面積	保管スペース	他の入荷車両			
1	原料・部材メーカー →メーカー(工場等)		継続的	中	生産計画にあわせた指定?	◎	◎	○～△	生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>メーカーの指定倉庫納品の際は、厳しい時間指定</li> <li>工場のラインまで納品させられるケース有</li> <li>重量物、主要部材で大量納入の際は指定</li> </ul>	
2	メーカー(工場、センター) →卸・小売センター(卸センター) →卸・小売センター	卸・小売センターが大規模	継続的	多	午前指定	○	○(DCの場合)	△～×	午後出荷作業	<ul style="list-style-type: none"> <li>AM時間指定が多い</li> <li>30分の範囲での指定が多い</li> <li>指定時間遅れの場合は荷受拒否有</li> </ul>	
		卸・小売センターが小規模(業務用卸等)	継続的	中	午前指定	△～×	×	△	午後出荷作業	<ul style="list-style-type: none"> <li>保管スペースが狭いところほど、厳しい時間指定を受ける。</li> </ul>	
3	卸・小売センター →小売店舗	スーパー等	継続的	多	①開店前、②午前中、③午後の3回	△	△～×	○～△	店頭への品出し作業	<ul style="list-style-type: none"> <li>納品車両台数は1日50台ほど有</li> </ul>	
		コンビニエンスストア等	継続的	多	○時指定	△～×	×	◎	店頭への品出し作業	<ul style="list-style-type: none"> <li>1日1店舗あたり平均9台</li> </ul>	
		パパママストア等	継続的	少	指定なし?	×	×	◎	店頭への品出し作業		

## 5-2. 業種等による分類・整理イメージ(その2)

No	分類		配送継続性	配送頻度	納品時間	着側の制約			後工程	委員会での意見、及び時間指定アンケートでの記載等	備考
	大分類	小分類				入荷待機等敷地面積	保管スペース	他の入荷車輛			
4	据付・設置		1回		○時指定	△～ ×	なし	◎	据付に係る作業	・納品時に営業マンが立ち会うため時間指定は必須 ・納品時間は営業マンが顧客と調整	→配送スケジュール事前予約制に変更し、配送効率を改善。ただし、物量が少なくなると非効率を招く部分も有。
5	建設現場		1回等	不定	○時指定	△～ ×	なし	○～ △	建設現場作業	・時間指定が厳しい ・受取人が不明	
6	B to C		1回		○時ー ○時	×	なし	◎	なし	・荷降ろし待ち時間よりも不在時の持ち戻りが課題	→エコポイント

### 【凡例】

	敷地面積	保管スペース	他社の車輛
◎	広い	広い	少ない
○	↑	↑	↑
△	↓	↓	↓
×	狭い	狭い	多い

### 時間指定及びそれに付随する事項によるCO<sub>2</sub>排出増要因

- ①指定された時間に届けても荷降ろし待ち時間が発生
- ②時間指定によって輸送距離が最短となるルートが組めない
- ③午前と午後の物量のアンバランス



一部委員に御協力いただき、  
CO<sub>2</sub>改善効果算出

上記に係る見直しを実施できた  
要因等に関する調査実施

## 7. 2009年度の活動計画(案)

- 1) 時間指定の見直しによるCO2改善効果の算出等に向けた調査実施
- 2) 推進するための施策の検討、  
並びに実施にあたっての阻害要因の整理
- 3) その他
  - ・時間指定と他の取引条件(例 リードタイム等)との関係

### 【アウトプット案】

- ・時間指定の見直しによるグリーン物流推進ガイド(仮称)
- ・行政等への意見・要望

# グリーンロジスティクス チェックリスト調査WG

## 【ロジスティクス環境宣言】

1. 自らの環境負荷を低減する
2. 環境負荷低減に取り組む企業を増やす
3. 情報を発信し、循環型社会の形成に寄与する

(2005年3月15日 第1期ロジスティクス環境会議 第4回本会議で採択)

## 1-1. 当WGの役割と運営体制

### 【狙い】

第2期環境会議で策定した「グリーンロジスティクス・  
チェックリスト」の普及を通じて、ロジスティクス分野での  
環境負荷低減を推進する ⇒ **JILS環境宣言の推進**

### 【メンバー】（敬称略 \* 幹事）

\* 流通経済大学

矢野 裕児

\* リコーロジスティクス(株)/

菅田 勝

(株)ロジスティクス革新パートナーズ

鴻池運輸(株)

狩谷 順二

東芝物流(株)

堀口 英雄

# 1-2. グリーンロジスティクスチェックリストとは

グリーンロジスティクスチェックリスト Ver1.0 2008/3/11

分類	No.	チェック項目	実施度合い				参考事例、関連情報等
			1. 出来ていない	2. 遅れ気味で努力不足	3. まずまず出来ている	4. よく出来ている	
方針 ① 全社的な取り組み	1	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。	企業の環境方針、行動計画等を策定していない。	企業の環境方針、行動計画等を策定しているが、トップのコミットメントがない、もしくはコミットメントの有無が不明である。	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。	方針に加え、企業の環境方針については、社内のみならず社外へも積極的に公表している。	トラック運送事業におけるグリーン経営戦略マニュアル(国産エコロジ―をビジョン) <a href="http://www.nacoco.co.jp/top/green_management_manual/truck_english.pdf">http://www.nacoco.co.jp/top/green_management_manual/truck_english.pdf</a>
	2	環境委員会や環境部門で、ロジスティクス分野における方針が策定されている。	ロジスティクス分野における方針が存在しない。	ロジスティクス分野における方針を策定中である。	ロジスティクス分野における方針は策定されているが、具体的な実施計画等にはリンクしていない。	ロジスティクス分野における方針、目標、重点施策を策定し、それに基づいた活動を実施している。	
	3	グリーンロジスティクスを推進する体制が構築されている。	グリーンロジスティクスを推進する体制が存在しない。	環境部門の設置、もしくは環境担当者が選任されているのみで、各事業所を含めた推進体制構築までは至っていない。	各事業所を含めた全社的な推進体制が構築され、それぞれ責任者が任命されている。	方針に加え、各段階で、定期的に委員会が開催されている。	トラック運送事業におけるグリーン経営戦略マニュアル(国産エコロジ―をビジョン) <a href="http://www.nacoco.co.jp/top/green_management_manual/truck_english.pdf">http://www.nacoco.co.jp/top/green_management_manual/truck_english.pdf</a>
	4	グリーンロジスティクス推進に向けての計画があり、周知徹底している。	グリーンロジスティクス推進に向けての計画は存在しない。	本社の計画を策定中である。	本社の計画は策定しているが、指定部門以外には把握していない。	本社の計画を策定し、全社的に周知徹底している。	トラック運送事業におけるグリーン経営戦略マニュアル(国産エコロジ―をビジョン) <a href="http://www.nacoco.co.jp/top/green_management_manual/truck_english.pdf">http://www.nacoco.co.jp/top/green_management_manual/truck_english.pdf</a>
	5	グリーンロジスティクス推進のため、社員へ教育(人材育成)を行っている。	グリーンロジスティクス推進のための教育訓練を実施しておらず、検討も行ったことはない。	グリーンロジスティクス推進のための教育訓練実施に向けて、検討している。	ロジスティクス関係部門を対象とした教育訓練は実施しているが、定期的かつ計画的なものではない。	環境に関する教育メニューを整理し、ロジスティクス関係部門に対し、定期的かつ計画的に教育訓練を実施している。	トラック運送事業におけるグリーン経営戦略マニュアル(国産エコロジ―をビジョン) <a href="http://www.nacoco.co.jp/top/green_management_manual/truck_english.pdf">http://www.nacoco.co.jp/top/green_management_manual/truck_english.pdf</a> グリーンロジスティクスエキスパート講座、グリーン物流基礎コース(日本語) <a href="http://www.logistics.or.jp/education/education_index.html">http://www.logistics.or.jp/education/education_index.html</a>

特長1

特長2

特長3

**特長1：全86項目 活動推奨チェック項目**  
⇒環境方針展開、組織体制構築から、物流部門にとって身近な活動項目、さらには他部門・パートナーとの連携を 意識した活動項目まで網羅

**特長2：1～4迄の4段階の実施レベル(活動水準)評価**

**特長3：豊富な参考事例・関連情報の掲載(行政・団体・企業等)**

### 1. グリーンロジスティクス・チェックリストを用いた調査実施

- ・調査実施 (2008年8月～10月31日)
- ・集計 (2008年10月～12月中旬)
- ・簡易診断結果送付 (2008年12月)

### 2. 調査結果等の普及広報

- ・グリーンロジスティクス・チェックリスト調査結果報告会  
(2009年2月12日)
- ・上記報告会概要をまとめた「CGLジャーナル」の作成  
(2009年3月下旬発行予定)



## 1-4. 簡易診断結果

【参加の狙い】チェックリストに回答することにより、**自社取組レベルの水準**、並びに **業界他社と比べて**、概ね **どの程度の位置**にあるかが分かるとありがたい

「簡易診断結果」の作成・送付

### < 簡易診断結果の内容 >

- ① 総括表
- ② 平均点の分布図
- ③ レーダーチャート
- ④ 中分類結果
- ⑤ 項目別結果

詳細は  
参考資料①

## 2-1. 調査結果 回答数

		合計	業種別			
			製造業	物流業	物流子会社	卸・小売業・その他
回答数		114	39	36	27	12
CGL	メンバー	58	24	14	13	7
	非メンバー	56	15	22	14	5

\*CGL…ロジスティクス環境会議の略

### <製造業の内訳>

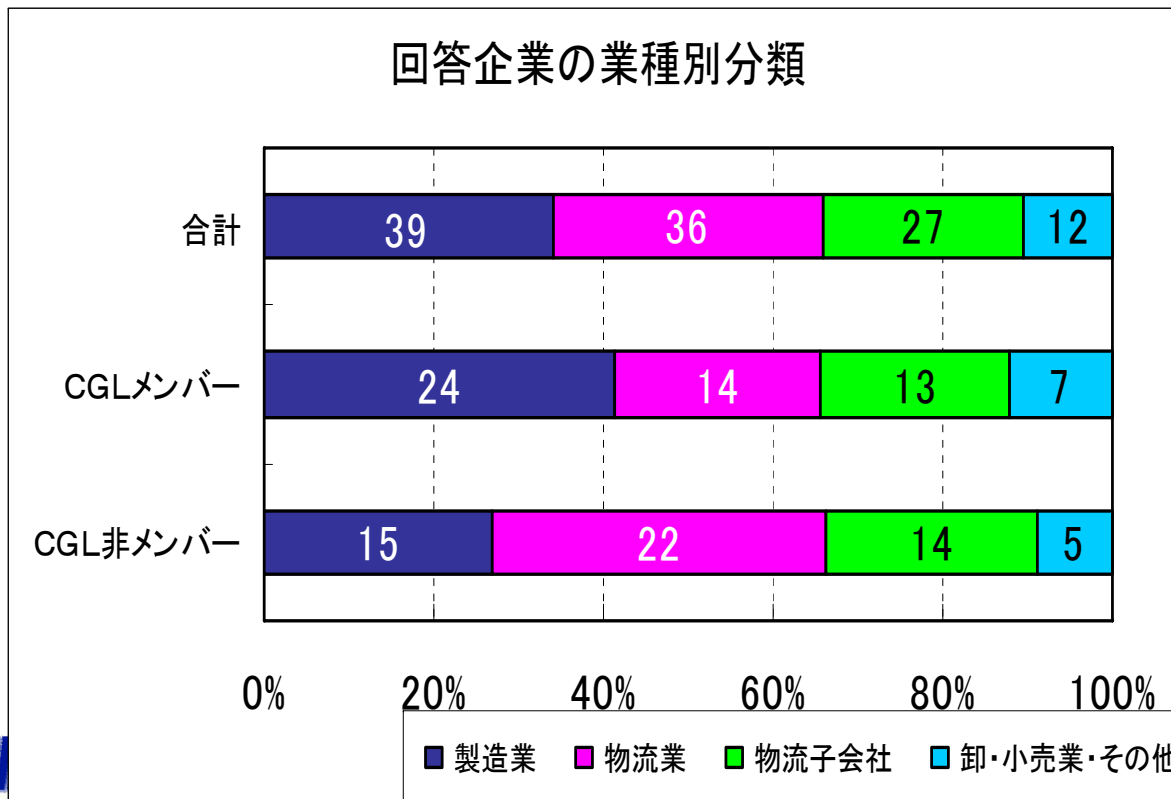
中分類	社数
食品	11
化学	3
繊維・製紙	2
医薬品	2
電機・機器	11
自動車	2
その他	8

### <物流業の内訳>

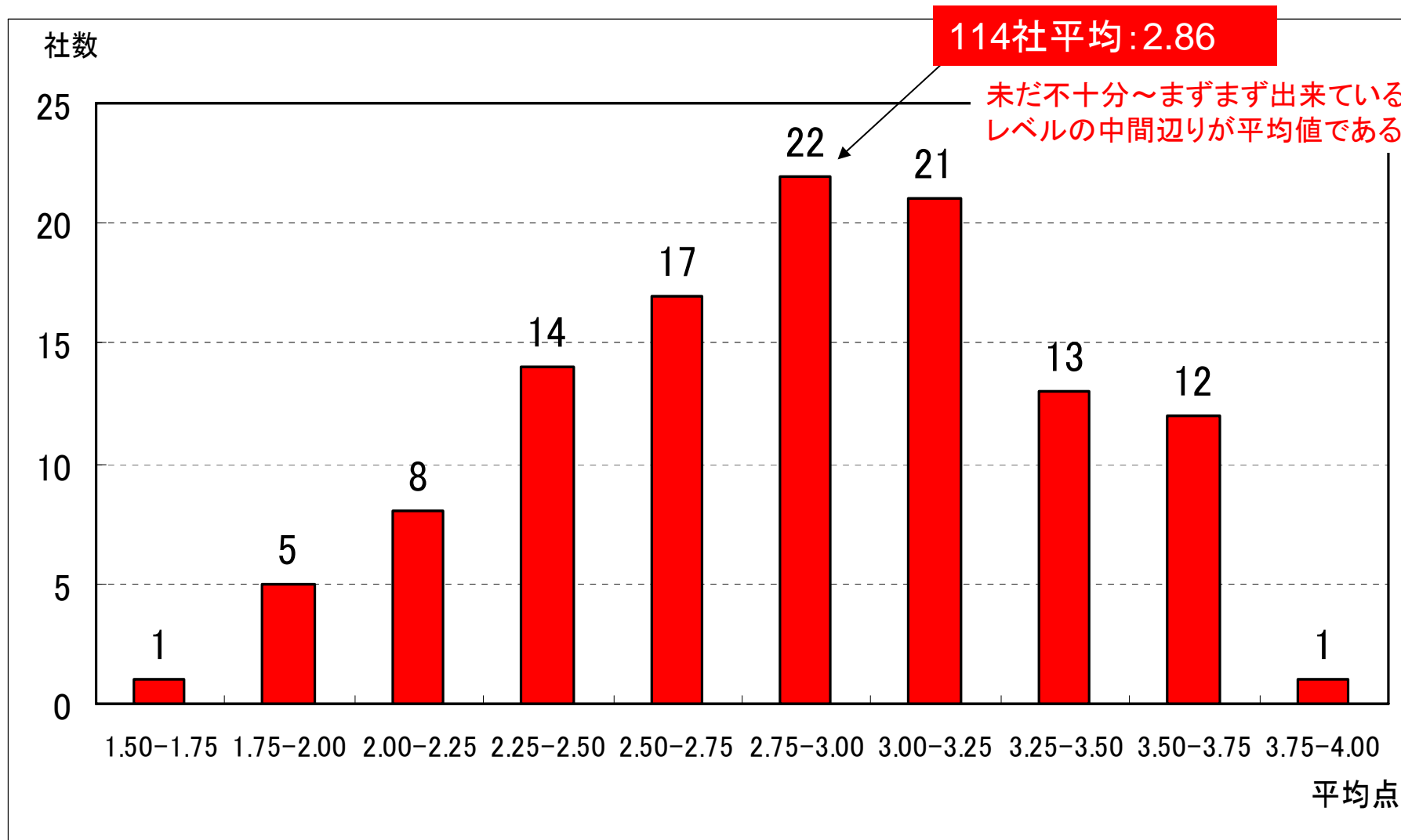
中分類	社数
陸上輸送	21
海運	1
空運	2
鉄道	0
倉庫	17
利用運送・物流管理業	15
その他	2

\*物流業は複数選択

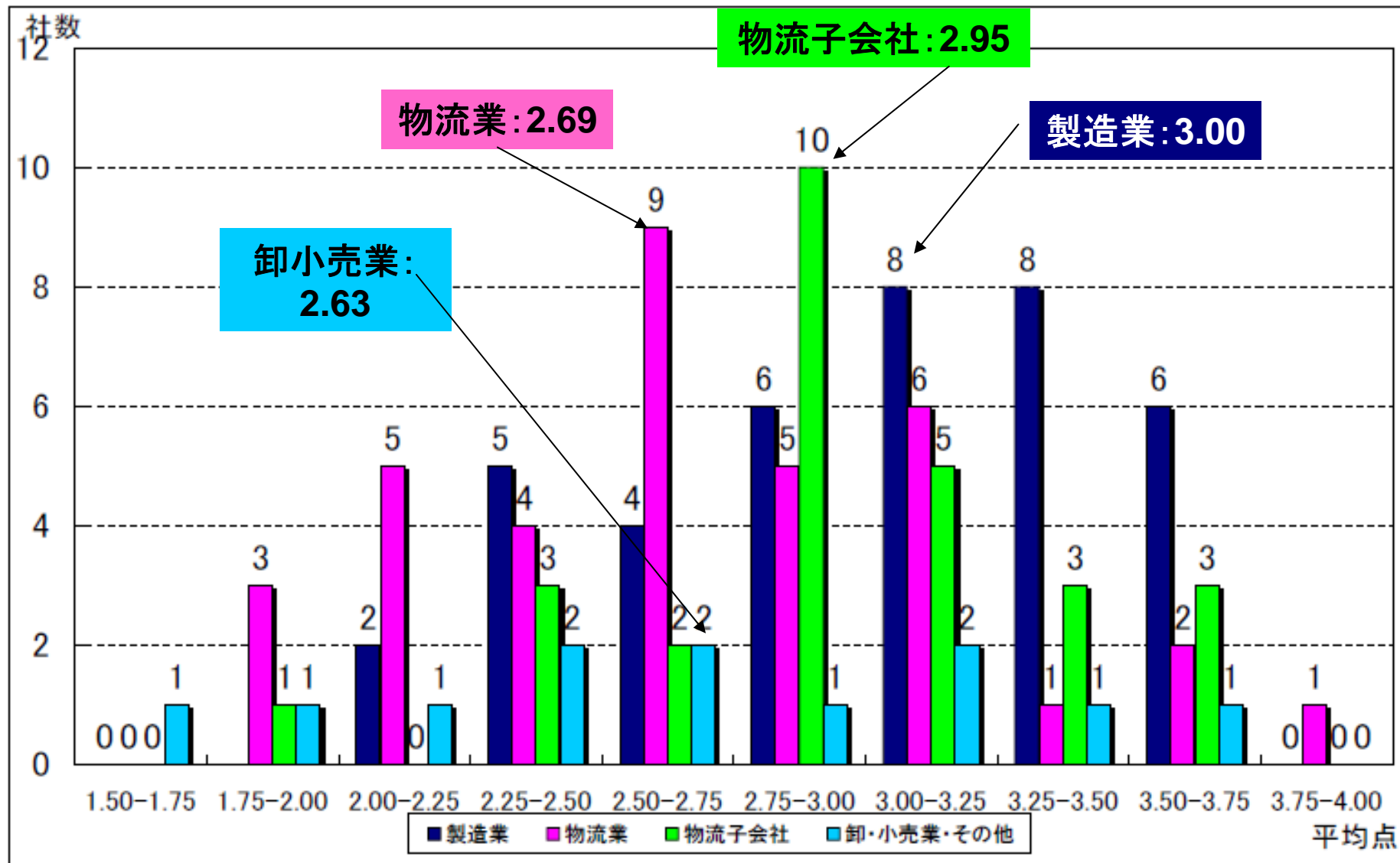
回答企業の業種別分類



## 2-2. 全体結果(平均点\_\_全体)

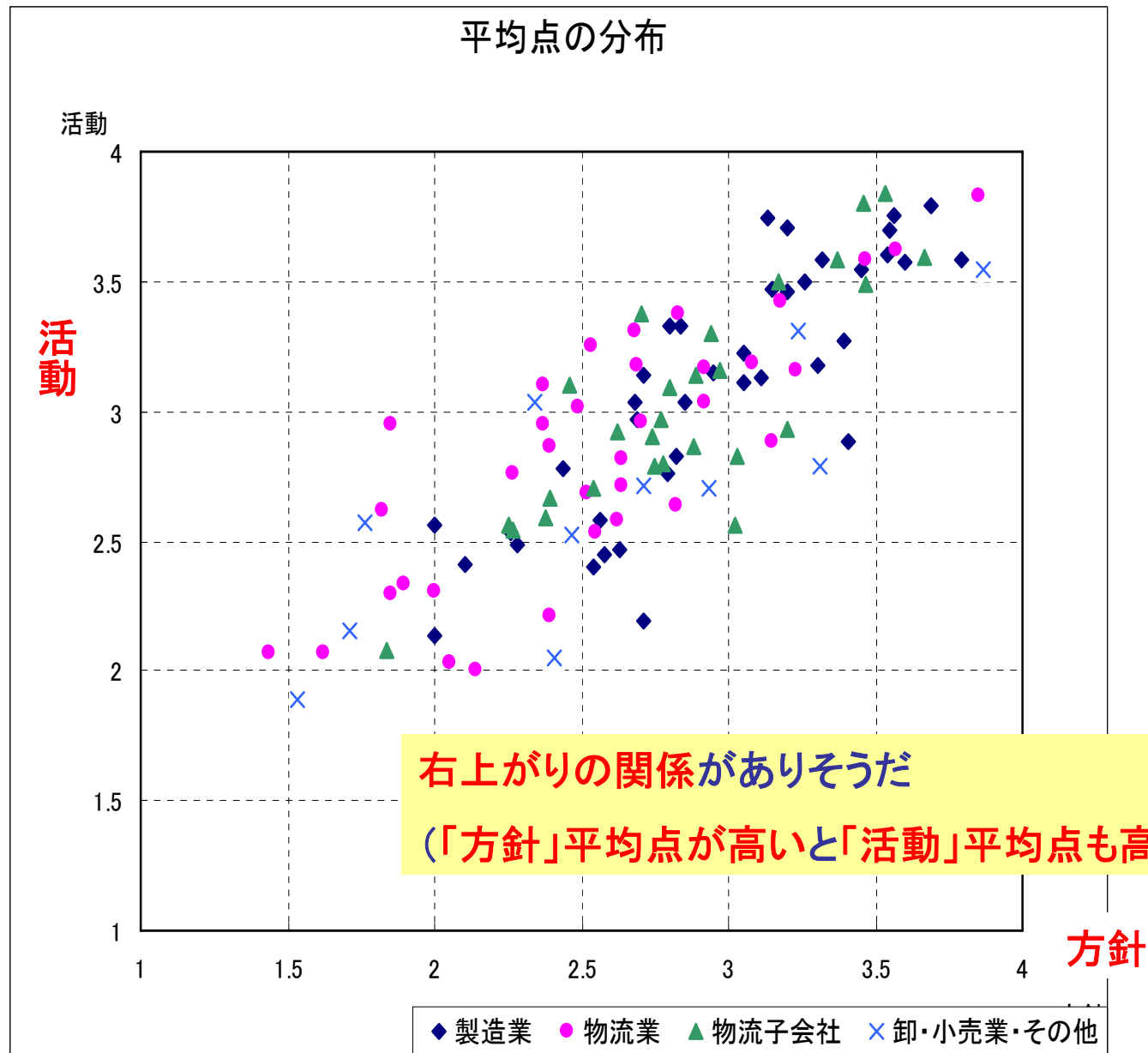


## 2-3. 全体結果(平均点\_\_業種別)

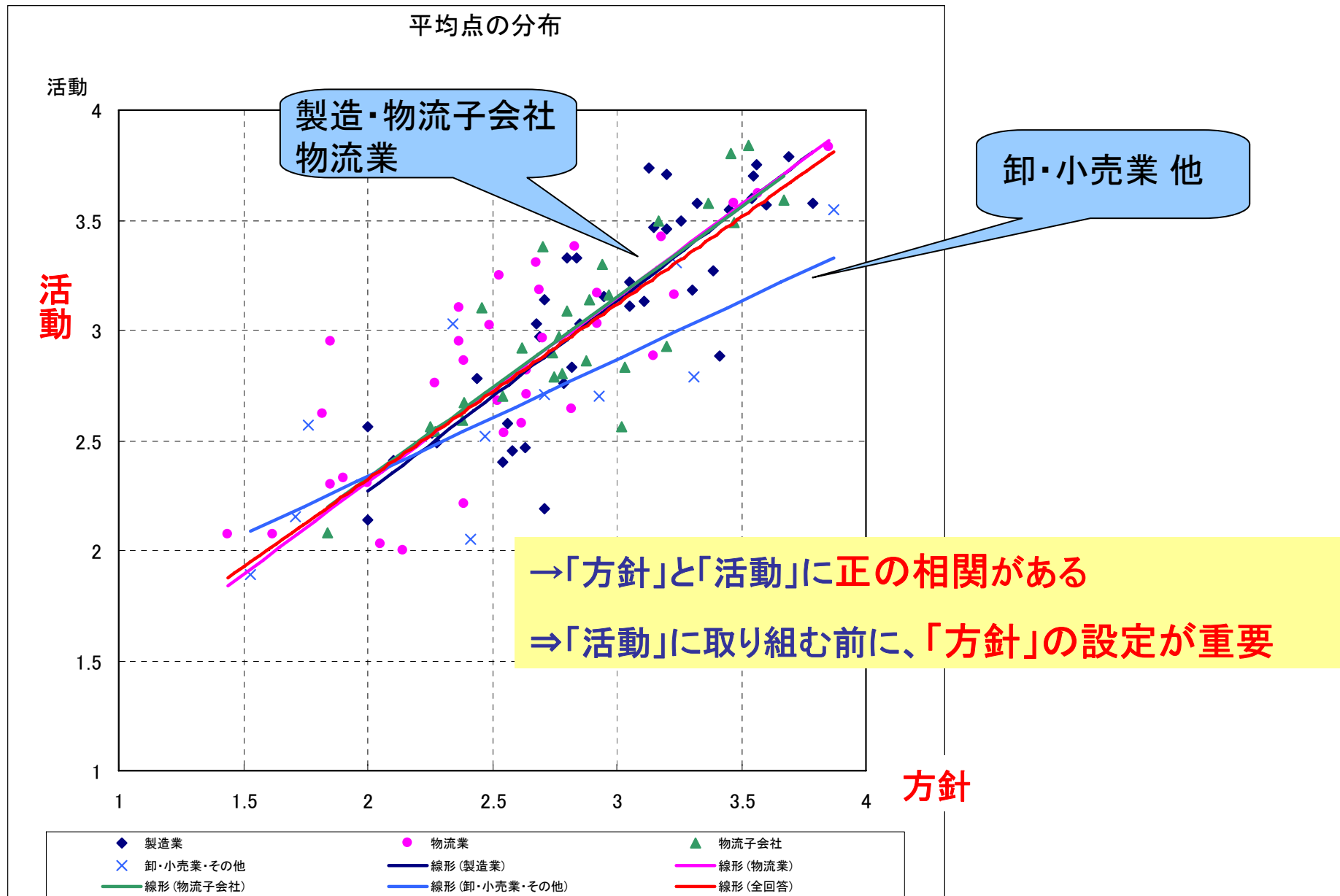


●「製造業」、「物流子会社」が、全体平均(2.86)を上回る

## 2-4. 「方針」—「活動」別結果(全体(その1))



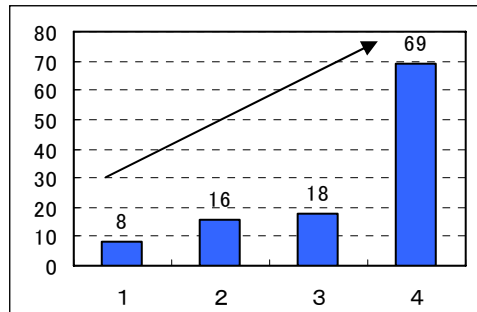
## 2-5. 「方針」—「活動」別結果(平均点(その2))



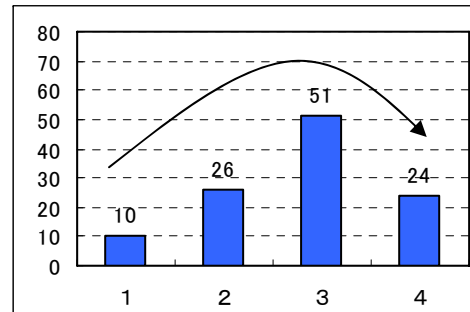
## 2-6. 回答分布の分類の考え方

- 回答「0（該当しない）」を除いた、レベル1から4の波形に基づき、**下記5パターンに分類**

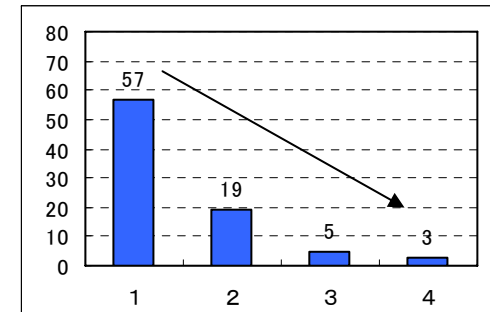
【普及完了型】



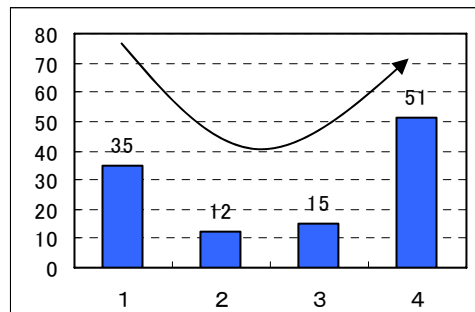
【普及途上型】



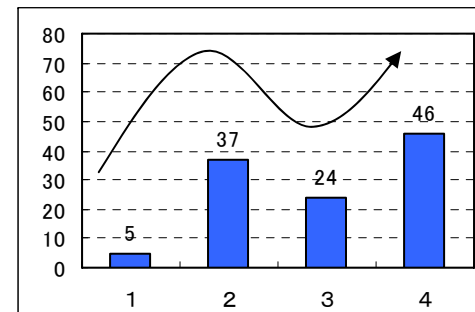
【初動型】



【制約型】



【波型】



## 2-7. 回答分布の分類の結果

タイプ	数	取組のしやすさ	特徴等
普及完了型	25	◎	・レベル4目指した活動、レベル4取組の浸透
普及途上型	35	○	・レベル2もしくは3で取り組みが止まっている 阻害要因の把握、除去 ・レベル4取組の浸透
初動型	3	×	・時期尚早？、設問そのものの妥当性再検討
制約型	4	△	・制約多い？(疎外項目の有無 分析必要)、 一気に最後まで
波型	19	？	・上記タイプの合成型 ・内容や実態の分析必要

全86項目

⇒詳細は参考資料②参照



### 3. グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告会

日時:2009年2月12日(木)14:30-16:30 会場:国際ファッションセンター 出席者:103名

#### 【報告】

「グリーンロジスティクスチェックリスト調査結果の概要」

#### 【パネルディスカッション】

「グリーンロジスティクスチェックリスト活用のすすめ」

- 取組のヒントを探る
- グリーンロジスティクスチェックリスト及び簡易診断結果の活用方法

<コーディネータ>

・ J I L S 北條 英

<パネリスト>

・ 流通経済大学	矢野 裕児	・ リコーロジスティクス(株)	菅田 勝
・ 鴻池運輸(株)	上田 詔俊	・ 東芝物流(株)	堀口 英雄



**グリーン物流活発化**の一助としていただく

1社でも多くの企業に活用いただくための活動

### 2009年度 活動計画(案)

#### 【第2回調査に向けた活動】

- ・チェックリスト 活用方法の普及啓蒙・周知
- ・回答者/利用者の視点で「回答し易さ/分かり易さ」追求  
(例) ●4段階の表現の分かり易さの確認  
●参考情報の充実、URLの妥当性の確認 等

#### 【第2回調査の予定】

調査実施 : 2009年8~9月  
集計 : 2009年10~12月  
簡易診断結果送付 : 2009年12月

## <参考資料>

- ①簡易診断結果
- ②回答分布の詳細

2008年5月28日

(参考①) 簡易診断結果(①総括表)

グリーンロジスティクスチェックリスト 簡易診断結果

結果の全体が  
把握できる

チェックをつけた  
点数(1~4点)の  
合計点

回答企業

ABC電機

業種

製造業

“平均点”から算出した順位

●総括表

回答企業の平均点  
(合計点÷「1~4と回  
答した」設問数)

回答企業の結果

この会社が属する  
業種(この例では  
製造業)の平均

回答企業全社の平均

		合計	方針	活動	貴社順位
貴社 回答	合計	191	96	95	
	平均	2.22	2.34	2.11	
業種 平均	合計	181	86.5	94.5	
	平均	2.1	2.11	2.1	3 / 4
全体 平均	合計	177.7	81.7	95.9	
	平均	2.07	1.99	2.15	5 / 10

86項目全ての結果欄

方針(41項目)の結果欄

活動(45項目)の結果欄

<参考> 偏差値 52.7

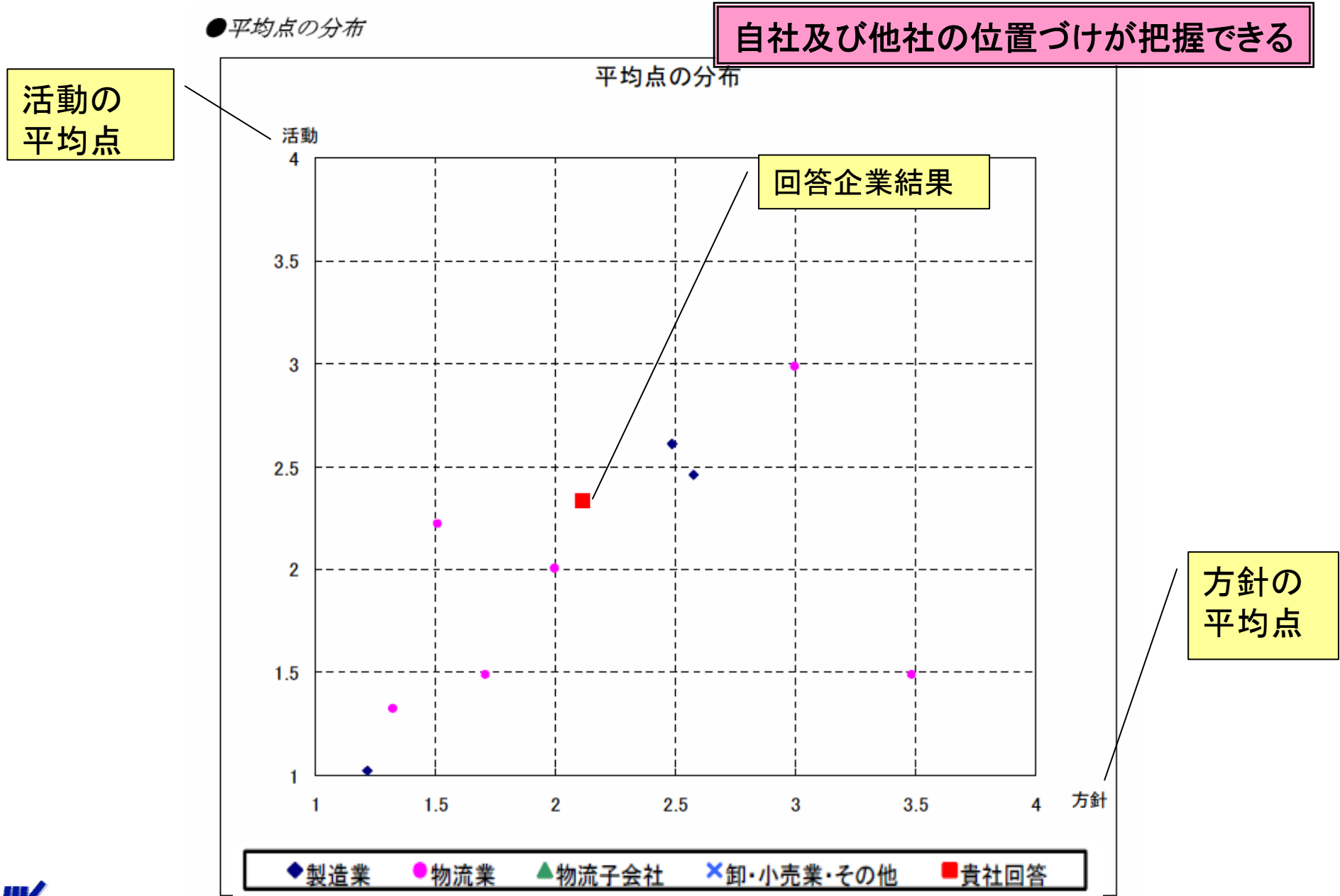
“合計点”から算出した偏差値で平均が50

\* 偏差値の値は順位とは直接関係ありません。



注:本スライドで記載されている数値は仮の値です

# (参考①)簡易診断結果の解説(②平均点の分布)



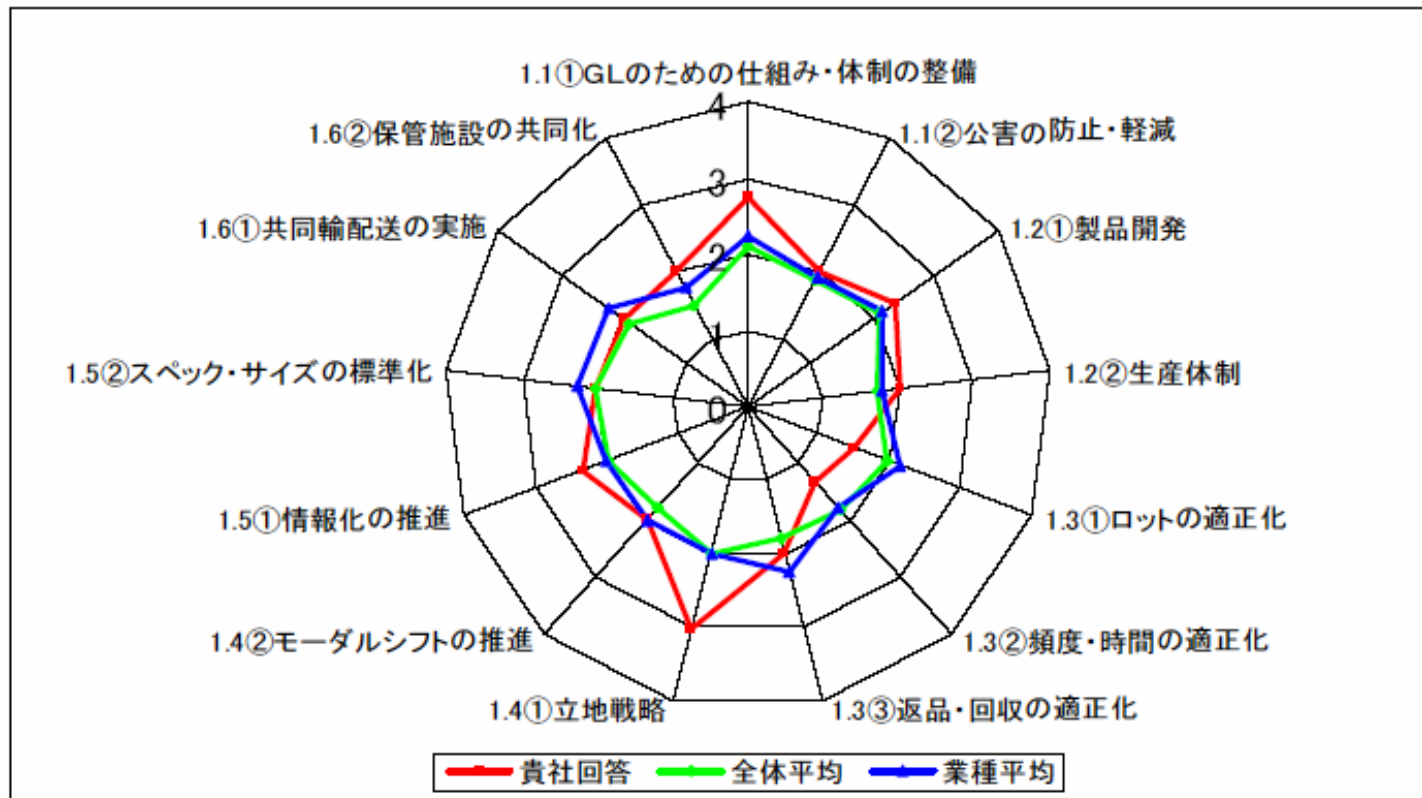
注:本スライドで記載されている数値は仮の値です

# (参考①)簡易診断結果(③レーダーチャート(方針))

中分類ごとに平均値を算出し、自社回答、全体平均、業種平均と比較することで、取り組みが進んでいる項目、遅れている項目が把握できる

## ●レーダーチャート

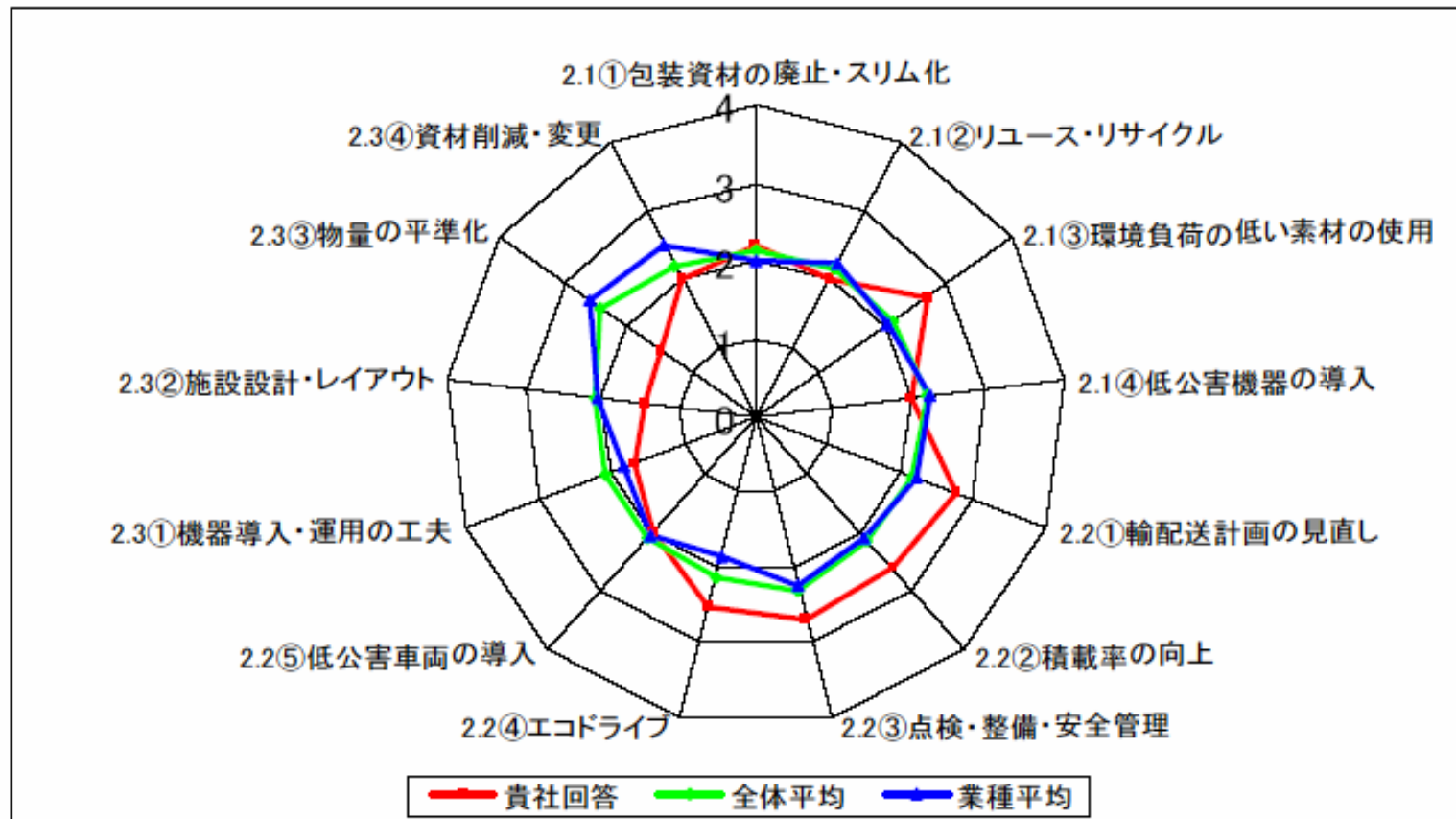
<方針>



# (参考①)簡易診断結果(③レーダーチャート(活動))

中分類ごとに平均値を算出し、自社回答、全体平均、業種平均と比較することで、取り組みが進んでいる項目、遅れている項目が把握できる

## <活動>



注:本スライドで記載されている数値は仮の値です

# (参考①)簡易診断結果(④中分類結果)

前スライドのレーダーチャートを表にして数値を示すと共に、業種平均値を比べて、自社回答が上回ったかが一目で判断できる

## 【グリーンロジスティクスチェックリスト中分類結果】 回答企業名: ABC電機

### 方針

○: 自社回答が業種平均よりも高い

#### 1.1 全社的な取り組み

##### ① グリーンロジスティクスのための仕組み・体制の整備

貴社回答: 2.74 ○  
業種平均: 2.24  
全体平均: 2.11

##### ② 公害の防止・軽減

貴社回答: 2 ○  
業種平均: 1.92  
全体平均: 1.87

#### 1.2 環境に配慮した製品開発・生産体制

##### ① 製品開発

貴社回答: 2.33 ○  
業種平均: 2.17  
全体平均: 2.1

##### ② 生産体制

貴社回答: 2 ○  
業種平均: 1.75  
全体平均: 1.7

×: 自社回答が業種平均よりも低い

#### 1.3 商取引の適正化

##### ① ロットの適正化

貴社回答: 1.5 ×  
業種平均: 2.12  
全体平均: 1.95

##### ② 頻度・時間の適正化

貴社回答: 1.33 ×  
業種平均: 1.75  
全体平均: 1.83



注: 本スライドで記載されている数値は仮の値です



# (参考①)簡易診断結果(⑤項目別結果)

86項目すべての項目について、自社回答、業種平均、全体平均を示すとともに、業種平均値を比べて、自社回答が上回ったかどうか  
が○×で判断できる

## 【グリーンロジスティクスチェックリスト項目別結果】 回答企業: ABC電機

### 方針

#### 1.1 全社的な取り組み

##### ① グリーンロジスティクスのための仕組み・体制の整備

No	1	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。	貴社回答: 3	○
			業種平均: 2	
			全体平均: 2.2	
No	2	環境委員会や環境部門で、ロジスティクス分野における方針が策定されている。	貴社回答: 3	○
			業種平均: 2.2	
			全体平均: 2	
No	3	グリーンロジスティクスを推進する体制が構築されている。	貴社回答: 4	○
			業種平均: 2.8	
			全体平均: 2.5	
No	4	グリーンロジスティクス推進に向けての計画があり、周知徹底している。	貴社回答: 3	○
			業種平均: 2.8	
			全体平均: 2.2	
No	5	グリーンロジスティクス推進のため、社員へ教育(人材育成)を行っている。	貴社回答: 4	○
			業種平均: 2.2	
			全体平均: 2	
No	6	ロジスティクス活動において発生する環境負荷の項目を把握している。	貴社回答: 3	○
			業種平均: 2.5	
			全体平均: 2.4	



注:本スライドで記載されている数値は仮の値です。

### 普及完了型の項目 一方針一

大分類	中分類	No	チェック項目
1.1	①	1	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。
1.1	①	2	環境委員会や環境部門で、ロジスティクス分野における方針が策定されている。
1.1	①	3	グリーンロジスティクスを推進する体制が構築されている。
1.1	①	4	グリーンロジスティクス推進に向けての計画があり、周知徹底している。
1.1	①	8	ロジスティクス分野において、法令遵守(廃棄物処理法、各種リサイクル法、過積載輸送の防止など)徹底に向けて取り組みをしている。
1.1	①	9	ISO14000sを取得している(自己宣言相当の活動をしている)。
1.1	①	13	輸配送に係る環境パフォーマンスを算定している。
1.1	①	15	グリーンロジスティクス推進のため、グループ企業、取引先、業界団体(自主行動計画など)と共同で取り組んでいる。
1.1	①	16	協力会社(傭車先等)に対し、環境配慮のための育成・指導を行っている。
1.2	①	23	包装資材の削減を考慮した製品開発を実施している。
1.5	①	40	輸配送車両の削減や積載率を高めるために、共同輸配送を実施している。

## 普及完了型の項目 ー活動ー

大分類	中分類	No	チェック項目
2.1	①	43	包装形態を簡易化(通い箱、ハンガー輸送、部分包装など)している。
2.1	①	45	未使用時も減容化しやすい包装材(折りたたみ式通い箱、組み立て式包装資材など)を採用している。
2.1	②	48	リターナブル、リユース、リサイクル可能な包装資材、運搬容器を使用している。
2.2	①	54	配送において、物量に応じて、車種、車数、配送ルート、配送回数をきめ細かく見直し、配車計画に反映させている。
2.2	②	58	輸送・取引単位が小ロットの場合は混載や共同輸送を利用している。
2.2	②	61	車両の積載効率向上のために、二段化等、積載方法を工夫している。
2.2	③	62	タイヤ空気圧の測定・補充を定期的に行っている。
2.2	③	63	エアフィルターの点検・清掃・交換を定期的に行っている。
2.2	③	64	排気ガスの色を目視で確認している。
2.2	④	65	エコドライブに係るマニュアル等を用いて、エコドライブ活動を実施している。
2.2	④	66	デジタコ等を活用し、ドライバーへエコドライブ指導を実施している。
2.3	①	73	効率的な人員配置と機器運用により、稼働時間の短縮を実現している。
2.3	②	76	入荷と出荷の車両が混雑・交錯・滞留しないように、施設・レイアウト設計の工夫、もしくはタイムスケジュール管理を行っている。
2.3	③	84	在庫量、出庫量、保管量を平準化し、保管スペースをコンパクトにしている。

## 普及途上型の項目 一方針一

大分類	中分類	No	チェック項目
1.1	①	5	グリーンロジスティクス推進のため、社員へ教育(人材育成)を行っている。
1.1	①	7	海外拠点を含めて、ロジスティクス分野における環境対策を実施している。
1.1	①	12	ロジスティクス活動に伴って発生する廃棄物の再資源化に向けて取り組んでいる。
1.1	①	17	物流拠点の周辺住民と共に、環境負荷(騒音、振動、ゴミ等)の軽減に向けた取り組みを実施している。
1.1	②	20	輸送機関(トラック、船舶等)の大気汚染の防止、軽減の施策を実施している。
1.1	②	21	騒音・振動の防止、軽減の施策を実施している。
1.1	②	22	水質汚濁の防止、軽減の施策を実施している。
1.2	①	24	輸送効率を考慮した製品開発を実施している。
1.3	②	29	取引先と協力し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)を実施している。
1.3	②	30	取引先と協力し、輸送量のピーク期間を移動させることにより平準化している。
1.3	②	31	入出荷時間を定刻化し、車両の待機時間を短縮している。
1.3	③	32	返品抑制のために、返品物流費の有償化や売買契約(納品条件)の見直し等の施策を実施している。
1.4	①	33	環境負荷を考慮に入れた拠点配置を進めている。
1.4	②	34	輸送に鉄道を利用している。
1.4	②	35	輸送に船舶(フェリーを含む)を利用している。
1.5	①	36	実需要に即応した体制、又は需要予測の精度を向上させ、無駄な生産、在庫、輸送を削減している。
1.6	②	41	物流拠点を他社と共同で利用している。

## 普及途上型の項目 ー活動ー

大分類	中分類	No	チェック項目
2.1	①	44	小箱包装を廃止して大箱にまとめている。
2.1	②	47	運搬容器やパレットのリユースについて、全社でシステム化し管理している。
2.1	③	50	再生素材を原料とする包装資材を使用している(バージン素材を使用しない)。
2.1	④	52	省エネ型、低公害型の包装用機器を導入している。
2.2	①	53	現状の輸送量やリードタイム等を勘案し、環境負荷の少ない輸送手段の使用を定期的に検討している。
2.2	①	55	輸送において、輸送先、輸送量に応じて拠点経由と直送を使い分け、全体で輸送効率を向上している。
2.2	①	56	便数削減のために、トラックの大型化、トレーラー化をすすめている。
2.2	②	59	得意先への配送の際には、他社との共同配送により積載率を高めている。
2.2	②	60	調達物流においてミルクラン方式(共同運行含む)を利用している。
2.2	⑤	67	クリーンエネルギー自動車を導入している。
2.2	⑤	68	最新の排気ガス規制に対応したトラックを前倒しで導入している。
2.2	⑤	70	エコタイヤを導入している。
2.3	①	72	環境負荷の高い物流機器を削減し、省エネ型物流機器、低公害型物流機器を導入している。
2.3	①	74	環境負荷の低減を考慮して、物流機器の使用の制限や適切な能力の機器の選択を行っている。
2.3	②	75	物流量の変動並びに作業動線を考慮して、倉庫レイアウト、あるいは在庫レイアウトを変更している。
2.3	②	78	電力設備、照明、空調に省エネ機器を導入している。
2.3	②	79	ラック、ネステナー、パレットサポーター等によって保管効率を向上させる工夫をしている。
2.3	③	85	不動在庫、不良在庫等の無駄な在庫を削減し、保管スペースをコンパクトにしている。

## 初動型の項目

大分類	中分類	No	チェック項目
1.1	①	10	エコアクション21を取得している(自己宣言相当の活動をしている)。
1.2	②	25	物流に関する記載が含まれた製品アセスメントガイドラインやマニュアルを利用して、製品評価を実施している。
2.2	⑤	71	バイオマス燃料を利用している

## 制約型の項目

大分類	中分類	No	チェック項目
1.1	①	18	ロジスティクス分野における環境に対する取り組みを環境報告書や環境レポート等に記載している。
2.1	①	46	無包装化に取り組んでいる。
2.3	②	77	積みおろしに伴う待ち時間のアイドリングを防止するため、ドライバー控室を設置している。
2.3	②	83	冷蔵・冷凍保存が必要な商品が過剰冷却にならないようにしている。

## 波型の項目

大分類	中分類	No	チェック項目
1.1	①	6	ロジスティクス活動において発生する環境負荷の項目を把握している。
1.1	①	11	グリーン経営認証を取得している(自己宣言相当の活動をしている)。
1.1	①	14	包装に係る環境パフォーマンスを算定している。
1.1	①	19	グリーンロジスティクス推進に寄与する、行政等の各種支援策を把握し、活用している。
1.2	①	26	積載率向上又は環境負荷の少ない輸送手段使用といったことに対応した生産体制を構築している。
1.3	①	27	取引先と協力し、取引基準を設定(取引単位を物流単位と整合化するなど)している。
1.3	①	28	取引先にインセンティブ(ロット割引等)を提供して、輸送単位を大きくするように誘導している。
1.5	①	37	標準物流EDI(JTRNなど)を利用し、配送伝票を電子化している。
1.5	①	38	標準輸送ラベルを使用している。
1.5	②	39	ユニットロードシステムを導入している。
2.1	①	42	使用包装資材を薄肉化、軽量化(段ボール紙質の軽量化 他)している。
2.1	③	49	包装資材の再使用、再資源化、廃棄を考慮して、素材を変更している。
2.1	③	51	有害物質を含まない包装資材を使用している。
2.2	②	57	帰り荷の確保のための工夫(求貨求車システムの導入等)をしている。
2.2	⑤	69	エンジン停止時も冷凍機能が停止しない冷凍車を使用している。
2.3	②	80	荷物積みおろし中の冷凍車のアイドリング防止のため、保冷車用のコンセントを設置している。
2.3	②	81	冷蔵・冷凍倉庫において、代替フロン(HFC)や自然冷媒を使用している。
2.3	②	82	冷蔵・冷凍倉庫において、できるだけ外気が侵入しないように工夫をしている。
2.3	④	86	ラベルやラベルインキ、テープ、養生資材等の購入の際に、素材を考慮している(グリーン購入)。

**第3期ロジスティクス環境会議**  
**省エネ法実態調査 2008年度活動内容と2009年度活動計画（案）について**

## 1. 目的

省エネ法で特定荷主、特定輸送事業者を作成、提出が義務付けられている定期報告書、計画書を収集し、環境会議メンバーにおけるエネルギー使用量や判断基準の遵守状況等の概況を集計、分析する。

なお、本調査は、第2期環境会議 CO<sub>2</sub>削減推進委員会で実施していることから、可能な範囲で経年変化の比較も行うこととする。

## 2. 2008年度の活動経過

1) 調査実施（2008年8月7日～9月5日）

2) 結果集計（2008年9月6日～9月30日）

3) 結果報告（2008年9月30日～）

- ・環境会議ホームページに集計結果の速報版を掲載（9月30日）
- ・環境会議メールマガジン「CGLニュース vol.12」に掲載（10月1日）
- ・研究会、委員会において速報版を配布

4) 概要編の作成（2008年12月1日）

省エネ法における省エネ責任者以外のCGLメンバー等にとっても「分かりやすく、かつ読みやすい」ように概要編を作成し、CGLジャーナル vol.1として発刊した。

## 3. 2009年度の活動計画（案）

基本的には2008年度調査と同様に実施するが、結果報告後、行政を交えた形での情報提供の場を検討する。

(1) 調査実施（2009年7月）

(2) 結果集計（2009年8月）

(3) 結果報告（2009年9月）

以 上



# 「鉄道へのモーダルシフト」 促進に向けた要望書の提出について

= 「CO<sub>2</sub>削減推進委員会・モーダルシフトWG」のその後の活動報告=

2009年3月10日

モーダルシフトWG幹事

トヨタ自動車(株) 高松 孝行

# ◆WGの体制(2007-2008)

## □幹事(敬称略)

武蔵工業大学 増井 忠幸  
トヨタ自動車(株) 高松 孝行

## □メンバー(18社)

NECロジスティクス(株)、(株)エプソンロジスティクス、  
オリンパス(株)、キヤノン(株)、新日本製鐵(株)、  
住友電気工業(株)、東京海洋大学、日清オイリオグループ(株)、  
日清食品(株)、日本通運(株)、(株)日通総合研究所、  
福岡倉庫(株)、不二製油(株)、富士通(株)、三井物産(株)、  
三菱電機(株)

# ◆WGの活動内容

①アンケート調査による検討対象の絞込み

☞ 鉄道への絞込み

②鉄道へのモーダルシフト

③事例等による確認

☞ 「事例集」の作成

④主要な問題点への対応方向提案

☞ 「要望書」の作成・提出

⑤まとめ

先回本会議  
(08/3)終了後も  
継続的に活動

# ◆「要望書」の趣旨

- ①荷主企業や利用運送事業者などの鉄道輸送の関係者の間では、これまで、トラック輸送と比べて制約条件が多いと言われる鉄道輸送を行うために**様々な工夫**を行ってきた。☞ 事例集:CO<sub>2</sub>削減推進員会活動成果報告書 2008年3月11日
- ②しかしながら鉄道へのモーダルシフトは期待通りに進んでいる訳ではない。
- ③その為鉄道へのモーダルシフトの一層の促進を図るために、**利用者の立場からJR貨物殿及び関係行政(国)に対して要望を行うものである。**

# ◆要望内容 (詳細は資料3-2「要望書」ご参照)

## ◇要望項目

- ①輸送枠の有効利用及び拡大について
- ②料金について
- ③鉄道貨物駅について
- ④エネルギー使用量の算定について
- ⑤リードタイムについて
- ⑥品質について

◇08/4以降、詳細内容・提出先等について関係  
行政、JR貨物殿と協議・調整

# ◆「要望書」提出先

◇国土交通省(2009年1月26日提出)  
「政策統括官」、「総合政策局<sup>1)</sup>」、「鉄道局<sup>2)</sup>」

◇尚、JR貨物殿には先方の要望もあり「要望書」の提出はしないが、要望実現に向け今後も提言して行きたい

1) 総合政策局環境政策課地球環境政策室

2) 鉄道局総務課貨物鉄道政策室

# ◆今後の活動計画

「企画運営委員会」活動の一環として

- ①関係行政、JR貨物殿との定期的な情報・意見交換会の実施
- ②その他の関係者（全国通運連盟殿、鉄道貨物協会殿など）との意見交換の検討

完



JILS 国第 08048 号  
2009 年 1 月 26 日

国土交通省 政策統括官 殿

社団法人日本ロジスティクスシステム協会

専務理事 徳 田 雅 人

ロジスティクス環境会議  
企画運営委員会副委員長 増 井 忠 幸

「鉄道へのモーダルシフト」促進のための要望提出の件

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年より京都議定書の第一約束期間が開始し、二酸化炭素を中心とした温室効果ガス排出量 6%削減の達成に向け、行政と産業界が協調して取り組むことがより重要となっております。

当協会では、ロジスティクスの観点から持続可能型社会の実現に貢献することを目的として、2003年11月より「ロジスティクス環境会議」を設立し、発荷主企業・着荷主企業と物流企業の連携による、二酸化炭素排出量、包装資材等の環境負荷の削減に向けた取り組みを推進しております。

今回、二酸化炭素排出量削減をより効率的・効果的かつ継続的に推進する視点から、標記の案件に関し、ご留意いただきたい事項を要望としてまとめましたので、添付のとおり提示申し上げます。

ご高覧のうえ、ご検討賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

敬具

添付資料：「鉄道へのモーダルシフト」促進のための要望

<連絡先>

社団法人日本ロジスティクスシステム協会

ロジスティクス環境推進センター 北條・栗原

〒105-0014 東京都港区芝 2-28-8 芝 2 丁目ビル 3 階

TEL:03-5484-4021 FAX:03-5484-4031 E-mail: cgl@logistics.or.jp

以上

## 「鉄道へのモーダルシフト」促進のための要望

社団法人日本ロジスティクスシステム協会  
ロジスティクス環境会議  
CO<sub>2</sub>削減推進委員会

### 1. 趣 旨

(社)日本ロジスティクスシステム協会では、ロジスティクスの観点から循環型社会の実現に貢献することを目的として2003年11月より「ロジスティクス環境会議」を立上げ、荷主企業・物流事業者との連携による二酸化炭素排出量、包装資材等の環境負荷削減に向けた取組みを推進しております。

今回「第2期ロジスティクス環境会議」の【CO<sub>2</sub>削減推進委員会】において“モーダルシフト推進ワーキンググループ”を編成、会員企業のモーダルシフト促進のための活動を推進して参りました。

ワーキンググループの活動内容は、「鉄道へのモーダルシフト」促進のための課題の抽出やその対応策の検討、更にはそれらの課題への具体的な取組み内容をまとめた事例集の作成などがございます。

しかしながら、中には私どもだけでは解決できない課題も多々あるため、今回、委員会として「鉄道へのモーダルシフト」をより促進するための要望を関係当局にさせていただくことと致しました。

なお、要望内容につきましては、行政の関係当局のみならずJR貨物殿にも直接関係する項目もございますので、本要望書では「JR貨物殿関連項目」として記載、要望させて頂きましたのでよろしくご対処の程お願い致します。

CO<sub>2</sub>排出量の削減が重要な課題となっております現在、物流における「鉄道へのモーダルシフト」は非常に大きな効果がございますことはご承知の通りでございます。

本要望について十分ご検討いただき、ご対応いただくことを切にお願い申し上げます。

## 2. 要望項目

以下6項目ございます。具体的内容は、3. をご参照下さい。

- ①輸送枠の有効利用及び拡大について
- ②料金について
- ③鉄道貨物駅について
- ④エネルギー使用量の算定について
- ⑤リードタイムについて
- ⑥品質について

## 3. 具体的内容

### 1) 輸送枠の有効利用及び拡大について

- ◆行政（国土交通省殿）への要望
  - ・国全体の輸送体系のグランドデザインの策定
  - ・ボトルネックにおける線路の増設
- ◆JR 貨物殿関連項目
  - ・貨物列車積載率<sup>1)</sup>の向上（予約状況の見える化）
  - ・輸送契約期間<sup>2)</sup>の柔軟な設定
  - ・増結・増便

#### ◆行政（国土交通省殿）への要望

僭越ではございますが、輸送分野の CO<sub>2</sub> 排出量削減策として有効なモーダルシフトはトンキロベースでは減少しており、(00 年度の内航海運+鉄道の輸送割合は 45.7%、06 年では 39.8%と減少) 今後のわが国の輸送体系のあり方を抜本的に検討する必要があると考えます。例えば、鉄道輸送を中心とした我が国全体の輸送（貨物及び旅客）体系のグランドデザイン、特に鉄道貨物輸送のあり方・役割（将来輸送量計画、サービス等）などについて中長期的な視座から、検討、策定されることを要望いたします。

また、短期的には、輸送能力拡大の緊急対策として、例えば、東海道本線名古屋駅近辺のボトルネックを解消するため、線路の増設などの対策を進めることが望ましいと考えます。

---

1) 貨物列車積載率 = [1本の貨物列車に積載されたコンテナの数 / 1本の貨物列車に積載可能なコンテナの数] × 100 (%)  
例えば、26両編成のコンテナ列車の場合、積載可能なコンテナの数は130本であるから、積載されたコンテナの数が65本ならば貨物列車積載率は50%、91本ならば貨物列車積載率は70%となる。(5tコンテナで換算)

2) JR貨物とフォワーダー間の輸送枠の契約期間は3箇月単位。一方、フォワーダーと荷主間の輸送枠の契約期間は、3箇月単位を前提に、様々なケースがあることが考えられる。

## ◆JR 貨物殿関連項目

鉄道輸送を行うにあたり、荷主/フォワーダーは輸送枠を確保する必要がありますが、東海道・山陽線などの人気路線は、輸送枠を確保することが大変難しいと言われていています。しかしながら、上記東海道・山陽線のように輸送需要が集中している路線であっても、マクロ的に見た貨物列車の積載率は7割程度であるとの情報<sup>3)</sup>もごございます。

そこでモーダルシフト推進のため、JR 貨物殿に対し、まず現状の輸送枠における貨物列車積載率の向上を図る対策を講じられることを要望致します。

そのためには、まず、鉄道輸送の利用関係者に対し、輸送枠の空き状況をオープンにする<sup>4)</sup>必要があると考えます。

何故なら、鉄道輸送の発・受注の構造が、「荷主からフォワーダー」及び「フォワーダーからJR 貨物」という構造になっていることから、フォワーダーの JR 貨物への予約発注量と荷主の利用時の実輸送需要量との間に乖離が生じ、これが貨物列車の実積載率の向上を妨げていることが想定されるからです。従いまして需要の大きい路線につきましては関係者に予約状況がいつでも見えるようにし、また空きが出る場合、柔軟な対応により出来るだけ空きを減らす取組みが必要と考えます。

一方、荷主にとりましても輸送需要の変動を長期間で予測することが大変難しいことから、輸送枠を直前になって手放さなければならないことに起因する貨物列車積載率の低下を防ぐため、輸送枠の契約期間を短期間にするなど、輸送契約期間を柔軟に設定することなども必要と考えます。

また将来的には、高需要路線について種々課題があると考えられますが<sup>5)</sup> 需要増対策として、貨車の増結や貨物列車の増便を検討する必要があると考えます。

## 2) 料金について

### ◆行政（国土交通省殿）への要望

- ・鉄道コンテナと海上輸送コンテナとの共通化のご検討

### ◆JR 貨物殿関連項目

- ・料金低減に対する考え方のご提示（料金を左右する要因・料金決定メカニズムなど）
- ・31ft コンテナ利用拡大策の検討（31ft コンテナの回送料金の見直しなど）

3) 東海道本線でもマクロに見ると30%の空きがあるという情報（国土交通省物流政策統括官付）、また、コンテナ輸送については現在の販売率は70%程度であり現状でも30%程度の空きがあるという情報【運輸と経済（財）運輸調査局、2008年1月、p.8】がある。これらの情報は、情報時点がやや古い（2003年）がローディングファクタ（貨物車1両あたりの積載率）の全国平均値を61.9%（ちなみに、関東⇄関西は62.8%）とする資料【路線研究のグランドデザイン 土木学会構造工学委員会鉄道構造小委員会路線研究のグランドデザイン研究会、2003年12月、p.229】の数字と比較的近い値である。

4) 以前は「黒板会議」と言って、貨物駅の事務所に掲示された黒板に記されたフォワーダー各社の積載情報を見ながら、フォワーダーの担当者が枠を融通しあうことができた。積載情報が電子化された今、このようなことが出来なくなっている。

5) 現状の在来線の幹線輸送力を増やすことは、競合する旅客の通勤列車を現状通りと仮定し、信号システムや列車最高速度を現在のままとした場合、困難であるとする記述がある【前掲 路線研究のグランドデザイン、p.242】。

### ◆行政（国土交通省殿）への要望

輸送容器の規格化・共通化・共用化は輸送効率向上・コストダウンに大変大きなウェイトを占めています。将来的に鉄道コンテナを海上輸送コンテナと共通化・共用化することにより、日本の物流の国際競争力は格段に向上すると思われます。今後の重要な課題と考えますので是非ご検討をお願いします。

### ◆JR 貨物殿関連項目

荷主にとりましてモーダルシフトによってコストが増大してしまうようなこととなりますと、その推進を阻害することになりかねません。従いまして私ども荷主やフォワーダーが、自らどのようにすれば鉄道輸送コストの削減ができるか、できれば鉄道輸送コストを左右する要因や料金決定メカニズムについてご説明いただくと役に立つと考えます（例えば輸送ロット設定の考え方など）。

また、トラック輸送から鉄道輸送への切替を想定した場合、31ft コンテナは10 トントラックと貨物容量がほぼ同じことから、極めて大きな役割を持ちます。しかしながら 31ft コンテナは現在ほぼ全てが私有コンテナのため、JR 貨物殿が所有する 12ft コンテナ（5t コンテナ）と異なり回送料金が上乗せされ、その結果コスト高に繋がるようなケースも起きています。このような現状を踏まえ、今後 31ft コンテナの拡大策についてご検討をお願い致します。

## 3) 鉄道貨物駅について

### ◆行政（国土交通省殿及び地方自治体）への要望

- ・設備投資への支援、公共部門による貨物鉄道駅の整備手法の検討

### ◆JR 貨物殿関連項目

- ・輸送効率をあげるため 31ft コンテナの取扱いターミナルの増設

### ◆行政（国土交通省殿及び地方自治体）への要望

上記対応のためには設備投資及び新駅開発整備に多大な費用が必要と思われます。

モーダルシフトを、公共の政策として進める見地から、設備投資への支援策や公共部門による貨物鉄道駅の整備方策等を検討する必要があると考えます。

### ◆JR 貨物殿関連項目

トラック輸送から鉄道輸送への転換を想定した場合、31ft コンテナの果たす役割は大きいものがあります。しかしながら、31ft コンテナの取扱いができる大型荷役機器（トップリフター）の配備駅は、303 駅<sup>6)</sup> 中 53 駅（17.5%）に留まっています。このため、目的地近くの鉄道駅が使えず、遠方のトップリフター配備駅までトラック輸送を行わなければならない、CO<sub>2</sub> 排出量も増大しているといった例も多々ございます。

6) 303 駅の中には、事実上営業していない駅も含まれている。稼働中のコンテナ取扱駅はおおよそ 140 駅程度。

そこで輸送効率の向上、また今後の鉄道の利用拡大のため、トップリフターを配備した 31ft 及び 40ft コンテナの取り扱い駅を増やす<sup>7)</sup> 必要があると考えます。

以下が要望する駅或いは地域です。

**表 31ft 及び 40ft コンテナを利用したい駅・地域の例示 (1/2)**

	弘 前	北 上	東福島 ORS	郡 山 貨物駅	土 浦
31ft	○	○	○	○	○
40ft	○	○	○	○	

**表 31ft 及び 40ft コンテナを利用したい駅・地域の例示 (2/2)**

	本 牧	四日市	米 原	敦 賀	西大分
31ft			○	○	○
40ft	○	○			

#### 4) エネルギー使用量の算定について

◆行政（国土交通省殿）及び JR 貨物殿への要望

- ・荷主やフォワーダーによる輸送の効率化などの工夫が鉄道輸送のエネルギー使用量（CO<sub>2</sub> 排出量）に反映されるエネルギー使用量算定手法の開発及び告知
- ・将来的には、鉄道輸送のエネルギー使用量（CO<sub>2</sub> 排出量）を正確に把握するための手法の開発及び告知

◆行政（国土交通省）及び JR 貨物殿への要望

鉄道輸送のエネルギー使用量（CO<sub>2</sub> 排出量）を算出するために用いるトンキロ当たり原単位は、現状では一律であるため、例えば、貨物列車積載率の向上やコンテナ積載率の向上などによる輸送改善策の実施効果が把握できないのが現状です。

モーダルシフトをすればそれで終わりというわけではなく、モーダルシフト後も継続的な改善活動を実施し、その効果を測定できるようにする必要があります。つまり荷主やフォワーダーによる輸送の効率化などの工夫が鉄道輸送のエネルギー使用量（CO<sub>2</sub> 排出量）の低減に反映される手法を開発し告知する必要があると考えます。

また、将来的には、鉄道輸送のエネルギー使用量（CO<sub>2</sub> 排出量）を正確に把握するための手法を開発し告知する必要もあると考えます。

考えられる指標は以下のとおりです。

7) 「アクションプラン」に記述はある（53 駅→70 駅）が、具体的な時期は不明。

### 【改善活動を評価できると考えられる指標の例】

- ・コンテナの大きさに応じたエネルギー使用量（CO<sub>2</sub> 排出量）原単位
- ・コンテナ積載率<sup>8)</sup>に応じたエネルギー使用量（CO<sub>2</sub> 排出量）原単位
- ・貨物列車積載率を反映させたエネルギー使用量（CO<sub>2</sub> 排出量）原単位 など

## 5) リードタイムについて

### ◆JR 貨物殿関連項目

- ・ 定時、短時間輸送の確立
- ・ E&S (Effective & Speedy Container Handling System)方式実施駅の拡大

### ◆JR 貨物殿関連項目

荷主やフォワーダーは、これまで、トラック輸送と比べて長くなりがちな鉄道輸送のリードタイムを与件とした上でモーダルシフトを実施してきました。

今後とも鉄道輸送を安定して継続するためには、まず鉄道輸送の優位性である定時輸送を確保する必要があります。

さらに、鉄道輸送のリードタイムを短縮するために、結節点での滞留時間を削減する E&S 方式<sup>9)</sup>の実施駅を拡大することや接続ダイヤを見直すこと<sup>10)</sup>が必要であると考えます。

## 6) 品質について

### ◆JR 貨物殿関連項目

- ・ フォークリフト荷役作業の品質向上

### ◆JR 貨物殿関連項目

荷主やフォワーダーは、これまで鉄道輸送の振動特性などに適合した包装資材の利用や養生などによって、輸送品質を確保してきたところであります。

しかしながら、鉄道駅でのフォークリフト荷役中に荷物を破損した例が報告されています。

鉄道貨物駅で実際の荷役業務に従事する業務委託会社を含めて、荷役作業の品質をこれまで以上に向上させる必要があると考えます。

以上

8) コンテナ積載率=[1本のコンテナに積載された貨物重量/1本のコンテナに積載可能な貨物重量]×100 (%)  
例えば、5tコンテナの場合、積載可能な貨物重量は5トンであるから、積載された貨物重量が2.5トンならばコンテナ積載率は50%、4トンならばコンテナ積載率は80%となる。

9) E&S方式(着発線荷役：着発線上に荷役ホームがあり、列車が駅に到着した直後に荷役作業を開始し、そのまま発車できる)は荷役時間の短縮に寄与する。具体的な数字については、例えば、「路線研究のグランドデザイン 土木学会構造工学委員会鉄道構造小委員会路線研究のグランドデザイン研究会、2003年12月、p.229」などを参照。

10) 「アクションプラン」では、「拠点駅を結ぶ幹線列車は、トラックと概ね同等のリードタイムを提供していますが、フィーダー区間の駅を発着する場合は複数の列車を利用することから、リードタイムが長くなってしまいうケースがあります」という記述がある。

情報提供活動に関する2008年度活動内容及び2009年度活動計画（案）

I. 2008年度活動内容

1. シンポジウム、講演会等のイベントの開催

1) 概要

環境会議全メンバーを対象に、委員会の活動成果等に関する情報発信、もしくは研究会、委員会ではとりあげていないテーマに関する情報提供等を目的に実施。

2) 2008年度活動内容

2008年度については、下記2つの催事を実施した。（詳細は別紙1）

(1) 「ロジスティクス環境会議 第2期委員会活動 成果発表会」の開催

日 時：2008年6月6日（金） 13：20～16：50  
会 場：人事労務会館／東京・港区  
参加人数：69名

(2) 「グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告会」の開催

日 時：2009年2月12日（木） 14：30～16：30  
会 場：国際ファッションセンタービル／東京・墨田区  
参加人数：103名

2. 媒体を通じた情報提供

1) 『CGLニュース』と『CGLジャーナル』による発信

本会議をはじめ、研究会、委員会の活動経過、各種催事、行政動向等について、以下の媒体を用いて、情報発信を行った。

(1) 『CGLニュース』（電子メール）

行政からの報道発表等を中心とした速報的内容について22号配信（2009年3月10日時点）  
（詳細は別紙2参照）

(2) 『CGLジャーナル』（冊子）

行政施策動向、各委員会等における活動状況等を集約し、年2回発行予定

Vol.1 2008年12月1日

・省エネ法実態調査 結果報告特別号

Vol.2 2009年3月末（予定）

・グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告



## II. 2009年度活動計画（案）

### 1. シンポジウム、講演会等のイベントの開催

環境会議全メンバーを対象に、委員会の活動成果等に関する情報発信、もしくは研究会、委員会ではとりあげていないテーマに関する情報提供等を目的に実施。

・上期（2009年8月から9月）1回、下期（2010年1月から2月）1回 開催予定

### 2. 媒体を通じた情報提供

本会議をはじめ、研究会、委員会の活動経過、各種催事、行政動向等について、引き続き以下の媒体を用いて、情報発信を行う。

(1) 『CGLニュース』（電子メール）

速報的内容とし、月2回程度の配信を予定

(2) 『CGLジャーナル』（冊子）

行政施策動向、各委員会等における活動状況等を集約し、年2回発行予定

以 上

## シンポジウム、講演会等のイベントの結果報告

## 1. ロジスティクス環境会議 第2期委員会活動 成果発表会

## 1) 結果概要

- 日 時：2008年6月6日（金） 13：20～16：50
- 会 場：人事労務会館／東京・港区
- 参加料金：無 料
- 参加人数：69名
- 主 催：(社)日本ロジスティクスシステム協会

## 2) プログラム

時 間	内 容
13：20～13：25	開 会
13：25～14：10	発表① 【CO <sub>2</sub> 削減推進委員会 モーダルシフトWG活動報告】 「鉄道へのモーダルシフトのさらなる推進に向けて」 第2期ロジスティクス環境会議 CO <sub>2</sub> 削減推進委員会 副委員長 モーダルシフトWG 幹事 高松 孝行 氏（トヨタ自動車㈱ 物流企画部 主査）
14：10～14：15	休 憩
14：15～15：00	発表② 【CO <sub>2</sub> 削減推進委員会 燃費向上WG活動報告】 「輸送事業者と発・着荷主の連携によるエコドライブ推進」 第2期ロジスティクス環境会議 CO <sub>2</sub> 削減推進委員会 副委員長 燃費向上WG 幹事 石崎 雅規 氏（東芝物流㈱ 物流技術部 品質・環境管理部 参事）
15：00～15：10	休 憩
15：10～15：55	発表③ 【グリーンサプライチェーン推進委員会 源流管理分科会活動報告】 「グリーンロジスティクスチェックリスト活用のすすめ」 第2期ロジスティクス環境会議 グリーンサプライチェーン推進委員会 副委員長 源流管理分科会 幹事 矢野 裕児 氏（流通経済大学 流通情報学部 教授） 菅田 勝 氏（リコーロジスティクス㈱）クオリティー（KAIZEN）アドバイザー 株式会社ロジスティクス革新パートナーズ 代表取締役）
15：55～16：00	休 憩
16：00～16：45	発表④ 【グリーンサプライチェーン推進委員会 取引条件分科会活動報告】 「取引条件を考慮した環境負荷低減施策に関する提案-加工食品をモデルとして-」 第2期ロジスティクス環境会議 グリーンサプライチェーン推進委員会 副委員長 取引条件分科会 幹事 恒吉 正浩 氏（味の素㈱ 食品カンパニー 物流企画部 企画グループ長）
16：45～16：55	「第3期環境会議の設置委員会の概要と今後のスケジュール」 ロジスティクス環境会議 事務局
16：55	閉 会

\* 役職は開催時点のもの

## 2. グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告会

### 1) 結果概要

- 日 時：2009年2月12日（木） 14：30～16：30
- 会 場：国際ファッションセンタービル /東京・墨田区
- 参加料金：無 料
- 参加人数：103名
- 主 催：(社)日本ロジスティクスシステム協会

### 2) プログラム

時刻	内 容
14：30～14：35	<b>【開 会】</b> 矢野 裕児 氏 （流通経済大学 流通情報学部 教授 （CGL グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG 幹事））
14：35～15：00	<b>【報 告】</b> <b>「グリーンロジスティクスチェックリスト調査結果の概要」</b> 栗原 純一 （社団法人日本ロジスティクスシステム協会 ロジスティクス環境推進センター）
15：00～16：25	<b>【パネルディスカッション】</b> <b>「グリーンロジスティクスチェックリスト活用のすすめ」</b> <b>&lt;コーディネータ&gt;</b> 北條 英 （社団法人日本ロジスティクスシステム協会 JILS総合研究所 主任研究員） <b>&lt;パネリスト&gt;</b> 矢野 裕児 氏 （流通経済大学 流通情報学部 教授 （CGL グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG 幹事）） 菅田 勝 氏 （リコーロジスティクス株式会社 クオリティー（KAIZEN）アドバイザー 株式会社ロジスティクス革新パートナーズ 代表取締役 （CGL グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG 幹事）） 上田 詔俊 氏 （鴻池運輸株式会社 環境部 課長） 堀口 英雄 氏 （東芝物流株式会社 品質・環境管理部 参与 （CGL グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG））
16：25～16：30	<b>【閉 会】</b>

\* 役職は開催時点のもの

以 上

## CGLニュースの配信結果

**Vol.1 2008年5月20日**

- ・2006年度温室効果ガス排出量 確報値を公表（環境省）
- ・国土交通白書2008を公表（国土交通省）

**Vol.2 2008年5月28日**

- ・2007年の年平均大気中二酸化炭素濃度が過去最高に（気象庁）
- ・「脱温暖化2050プロジェクト」～低炭素社会に向けた12の方策～を発表（環境省）

**Vol.3 2008年6月4日**

- ・平成20年度グリーン物流パートナーシップ推進事業が決定（グリーン物流P会議）
- ・エネルギー白書2008を公表（経済産業省 資源エネルギー庁）

**Vol.4 2008年6月11日**

- ・平成19年度家電リサイクル実績を公表（経済産業省、環境省）
- ・第2期成果発表会開催報告

**Vol.5 2008年6月30日**

- ・弾力的な鉄道貨物輸送システムのあり方に関する調査報告書について（国土交通省）
- ・東京都環境確保条例の改正（東京都）
- ・平成20年版環境・循環型社会白書を公表（環境省）

**Vol.6 2008年7月4日**

- ・グリーン物流パートナーシップ ソフト支援事業 2次募集のお知らせ（グリーン物流P会議）
- ・環境行動計画2008を発表（国土交通省）
- ・「平成20年度 容器包装3R推進環境大臣賞」の募集について（環境省）

**Vol.7 2008年8月4日**

- ・グリーン物流パートナーシップ ソフト支援事業 2次募集のお知らせ（グリーン物流P会議）
- ・グリーン物流パートナーシップ 普及事業 追加募集のお知らせ（グリーン物流P会議）
- ・「低炭素社会づくり行動計画」が閣議決定
- ・第15回エコレールマークの認定について（国土交通省）
- ・クリーンディーゼル普及推進方策の公表について（経済産業省、国土交通省、環境省）

**Vol.8 2008年8月15日**

- ・グリーンロジスティクスチェックリスト調査について
- ・平成20年度グリーン物流パートナーシップ優良事業の募集開始（国土交通省）
- ・平成20年度エコシップ・モーダルシフト事業優良事業者の募集について（国土交通省）
- ・バイオ燃料地域利用モデル実証事業の事業実施地区決定について（農林水産省）

**Vol.9 2008年8月21日**

- ・平成20年度グリーン物流パートナーシップ優良事業の募集について（経済産業省）
- ・平成21年版 環境・循環型社会白書表紙絵コンテストの実施について（環境省）

**Vol.10 2008年9月1日**

- ・平成19年度オゾン層等の監視結果に関する年次報告書について（環境省）
- ・「食品ロスの削減に向けた検討会」について（農林水産省）

#### **Vol.11 2008年9月24日**

- ・グリーン物流パートナーシップ推進事業決定（2次募集分）（グリーン物流P会議）
- ・地球温暖化学習教材「地球温暖化 今、わたしたちにできること」について（環境省）
- ・「食品ロスの削減に向けた検討会」について（農林水産省）
- ・物流と環境をテーマとしたイベント「第16回渋谷コロキウム」のご案内（武蔵工業大学）

#### **Vol.12 2008年10月1日**

- ・3R推進月間がスタート（環境省）
- ・「海の10モードプロジェクト」実船計測の実施について（国土交通省）
- ・ロジスティクス環境会議関連
  - 省エネ法実態調査 集計結果（速報版）の公表
  - グリーン物流研究会 活動報告
  - 包装の適性化推進委員会 活動報告
  - グリーンロジスティクスチェックリスト調査

#### **Vol.13 2008年10月17日**

- ・グリーン物流パートナーシップ 推進事業（普及事業）2次募集を開始（グリーン物流P会議）
- ・営業倉庫、トラックターミナル等の省エネ設備導入支援の2次募集のお知らせ（国土交通省）
- ・ロジスティクス環境会議関連
  - グリーン物流推進のための取引条件検討委員会 活動報告

#### **Vol.14 2008年11月10日**

- ・グリーン物流パートナーシップ 推進事業（普及事業）2次募集（グリーン物流P会議）
- ・環境配慮型3PL手引きの作成について（国土交通省）
- ・バイオ燃料の持続可能性に関する基準・指標のあり方について（農林水産省）
- ・ロジスティクス環境会議関連
  - グリーン物流研究会 活動報告

#### **Vol.15 2008年11月21日**

- ・第7回グリーン物流パートナーシップ会議のご案内（グリーン物流P会議）
- ・2007年度温室効果ガス排出量（速報値）の公表について（環境省）
- ・「環境を『力』にするビジネスベストプラクティス集」の発表（経済産業省）
- ・カーボンフットプリント・統一マークの決定について（経済産業省）
- ・ロジスティクス環境会議関連
  - 包装の適性化推進委員会 活動報告
  - グリーン物流推進のための取引条件検討委員会 活動報告

#### **Vol.16 2008年11月28日**

- ・第7回グリーン物流パートナーシップ会議 参加受付開始（グリーン物流P会議）
- ・第16回「エコレールマーク」の認定について（国土交通省）
- ・大気中の主要温室効果ガス濃度は過去最高値（気象庁）
- ・第5回エコプロダクツ大賞の結果について（エコプロダクツ大賞推進協議会）
- ・ロジスティクス環境会議関連
  - CGLジャーナルⅢ 第1号発刊
  - 第2回企画運営委員会開催報告

**Vol.17 2008年12月15日**

- ・第7回グリーン物流パートナーシップ会議 参加受付中（グリーン物流P会議）
- ・平成20年度グリーン物流パートナーシップ 推進事業を追加決定（グリーン物流P会議）
- ・産業廃棄物処理業者の優良性評価制度について（財団法人産業廃棄物処理事業振興財団）

**Vol.18 2008年12月22日**

- ・第7回グリーン物流パートナーシップ会議 開催報告（グリーン物流P会議）
- ・平成20年度エコシップマークの認定について（国土交通省）
- ・平成18年度の産業廃棄物の排出及び処理状況等について（環境省）
- ・ロジスティクス環境会議関連
  - 第6, 7回グリーン物流研究会開催報告

**Vol.19 2009年1月6日**

- ・グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告会のご案内
- ・「環境にやさしい企業行動調査」の結果について（環境省）

**Vol.20 2009年1月27日**

- ・「鉄道へのモーダルシフト」促進のための要望書を提出
- ・「省エネ法対応 荷主の省エネ推進の手引き」について（財団法人省エネルギーセンター）
- ・グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告会のご案内

**Vol.21 2009年2月25日**

- ・グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告会 開催報告
- ・第17回「エコレールマーク」の認定について（国土交通省）
- ・ロジスティクス環境会議関連
  - 第8回グリーン物流研究会
  - 第4回包装の適性化推進委員会
  - 第4回グリーン物流推進のための取引条件検討委員会

**Vol.22 2009年3月2日**

- ・グリーン物流パートナーシップ推進事業（普及事業）の募集予告について（グリーン物流P会議）
- ・営業倉庫等の省エネ設備・技術導入計画認定申請について（国土交通省）
- ・ロジスティクス環境会議関連
  - 第3回企画運営委員会

以 上

第3期ロジスティクス環境会議 2008年度スケジュール

	本会議	企画運営 委員会	グリーン物流 研究会	委員会		WG	省エネ法 実態調査	イベント
				包装の適正化	取引条件	チェックリスト調査		
5月			21 第1回					
6月		26 第1回	18 第2回	10 準備委員会	12 準備委員会			6 成果発表会
7月	31 第1回		16 第3回					
8月						調査	調査	
9月			24 第4回	26 第1回			集計	
10月			23 第5回		2 第1回		報告	
11月		20 第2回	19 第6回 (見学)	6 第2回	14 第2回	集計		
12月			3 第7回			11 第1回 結果返却	1 ジャーナル 第1号	
1月			21 第8回	15 第3回	19 第3回			
2月		26 第3回		19 第4回	20 第4回	2 第2回		12 結果報告会
3月	10 第2回					下旬 ジャーナル 第2号		

以上

第3期ロジスティクス環境会議 2009年度スケジュール(案)

	本会議	企画運営 委員会	グリーン物流 研究会	委員会		WG	省エネ法 実態調査	イベント
				包装の 適正化	取引条件	チェックリスト 調査		
開催数	1回	3回	8回	6～8回	6～8回	3回		2回
4月				○第5回	<調査>			
5月			○第9回	○第6回	○第5回			
6月		○第4回	○第10回		○第6回			
7月			○第11回	○第7回			<調査>	
8月					○第7回	<調査>	<集計>	
9月			○第12回	○第8回	○第8回	↑	<報告>	報告会
10月		○第5回	○第13回	○第9回		<集計>		
11月			○第14回		○第9回	↓		
12月			○第15回	○第10回	○第10回	<結果返却>		
1月		○第6回	○第16回	○第11回				
2月					○第11回			シンポジウム
3月	○第3回							

\*委員会等のスケジュールについては、検討状況等により変更になる場合がございます。

以上



# 2008年度活動の総括

## ロジスティクス環境宣言

### 1. 自らの環境負荷を低減する

自らの活動によって発生する環境負荷低減の目標を定め、目標達成に向けたマネジメントサイクルを推進する。

### 2. 環境負荷低減に取り組む企業を増やす

関係企業とパートナーシップを築き、共に環境負荷低減に向けた取り組みを推進する。

### 3. 情報を発信し、循環型社会の形成に 寄与する

活動を通して明らかになった課題については、企業・行政・団体等の関係者へ情報発信を行い、循環型社会の形成に寄与する。

環境宣言の実現

人的ネットワークの構築

- ・産業界に有用となるマニュアル等を作成する
- ・提言をまとめる
- ・自社の取組 / 自社の抱えている課題を発信する等を自らが主体的に行う異業種メンバーが集う場

- ・自社のメリットとなる情報だけ収集できればいい
- ・取引先がいる前では発言できない

### 3. 2009年度に向けて

